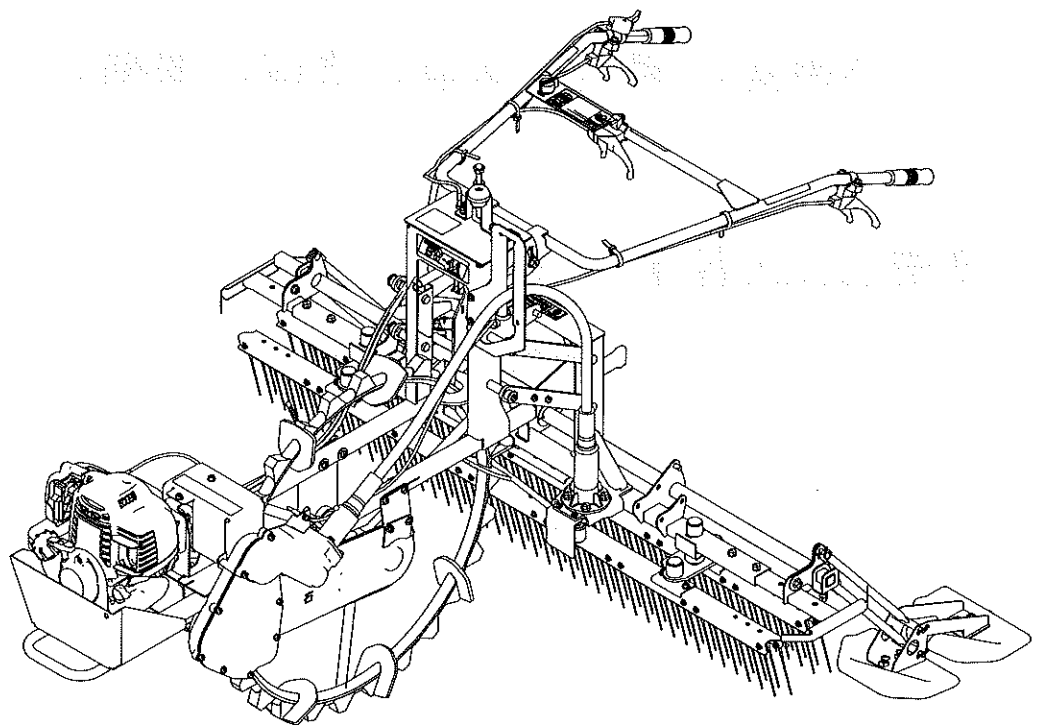


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

# みゆのる 歩行型ブラシ水田除草機

## BW-4A

### 取扱説明書



# 安全重要ポイント

---

本章では、本機を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

---


1. 燃料を補給するときは、  
必ずエンジンを停止し、火気厳禁とします。
2. エンジン始動時は、  
必ずクラッチレバーを「切」にします。
3. 作業中は、  
本機の周りに人を近づけないようにします。
4. 補助者と共同作業を行なうときは、  
合図をし、安全を確認します。
5. 本機を点検・調整するときは、  
必ずエンジンを停止します。

**本機をご使用になるときは、復唱してください。**

---

## 使用上のポイント





1. 本機を使用する耕盤の深さは 30 cm までであること。
  2. 除草時の水深は 3 ~ 5 cm であること。
  3. 苗が活着したら速やかに 1 回目の除草を行なうこと。
- 

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントと使用上のポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付けて説明しております。

よくお読みいただいて、必ず守っていただくようお願い致します。

# はじめに

- このたびは、本機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 本機は、水田雑草を除草する機械です。ただし、多年生雑草には効果がありません。
- 使用目的以外の作業や改造はしないでください。
- 本書は、本機の正しい取り扱い方法と点検、整備などについて説明しています。
- ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、正しく安全にご使用ください。
- 本書は大切に保管し、本機を貸与または譲渡される場合は、相手のかたに本書の内容を十分理解していただき、本書を本機に添付してお渡しくください。
- 本書に従った本機の正しい取り扱いや、点検・保守をしていただくことを推奨します。注意事項に従わず何らかの損害が発生した場合、保証の対象外になるためご注意ください。
- 本書を紛失または損傷された場合は、すみやかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上の観点から、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が本機と一致しない場合もありますが、ご了承ください。
- 本書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
	この項目に従わなかった場合、物的損害をこうむるおそれのあるものを示しています。 また、本機の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで本機の性能を最大限発揮してご使用ください。

ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

# 目次

---

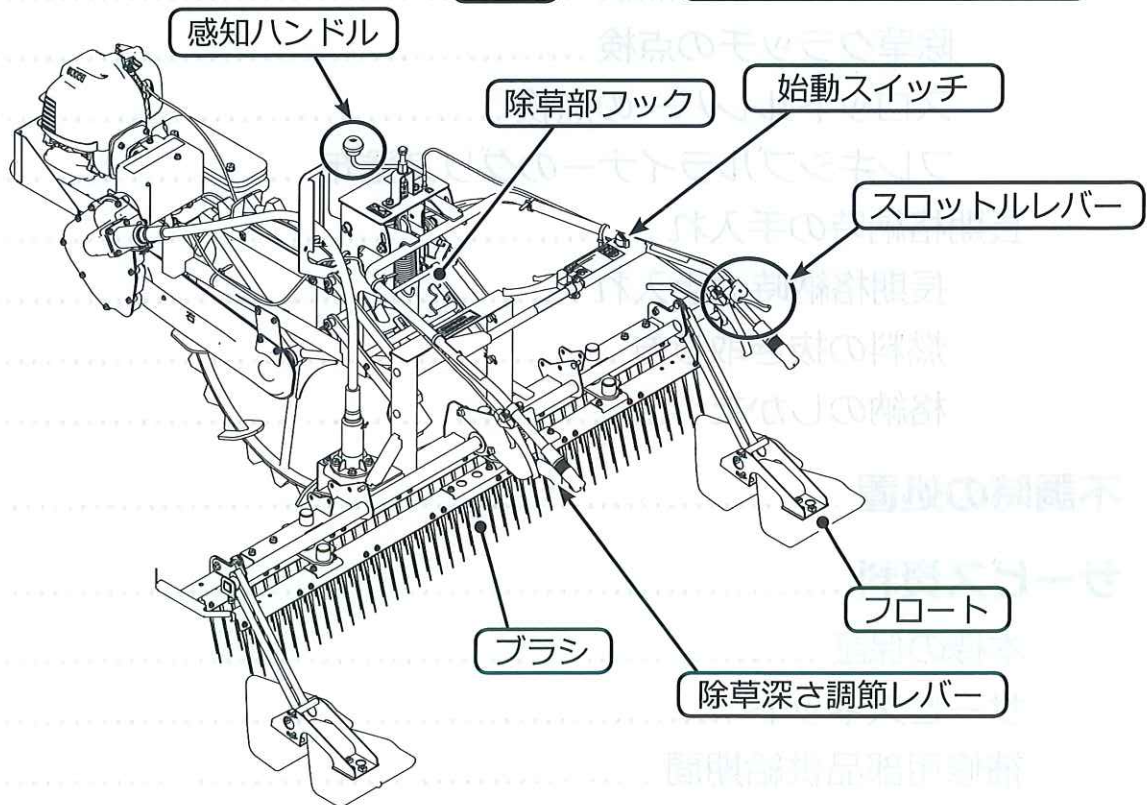
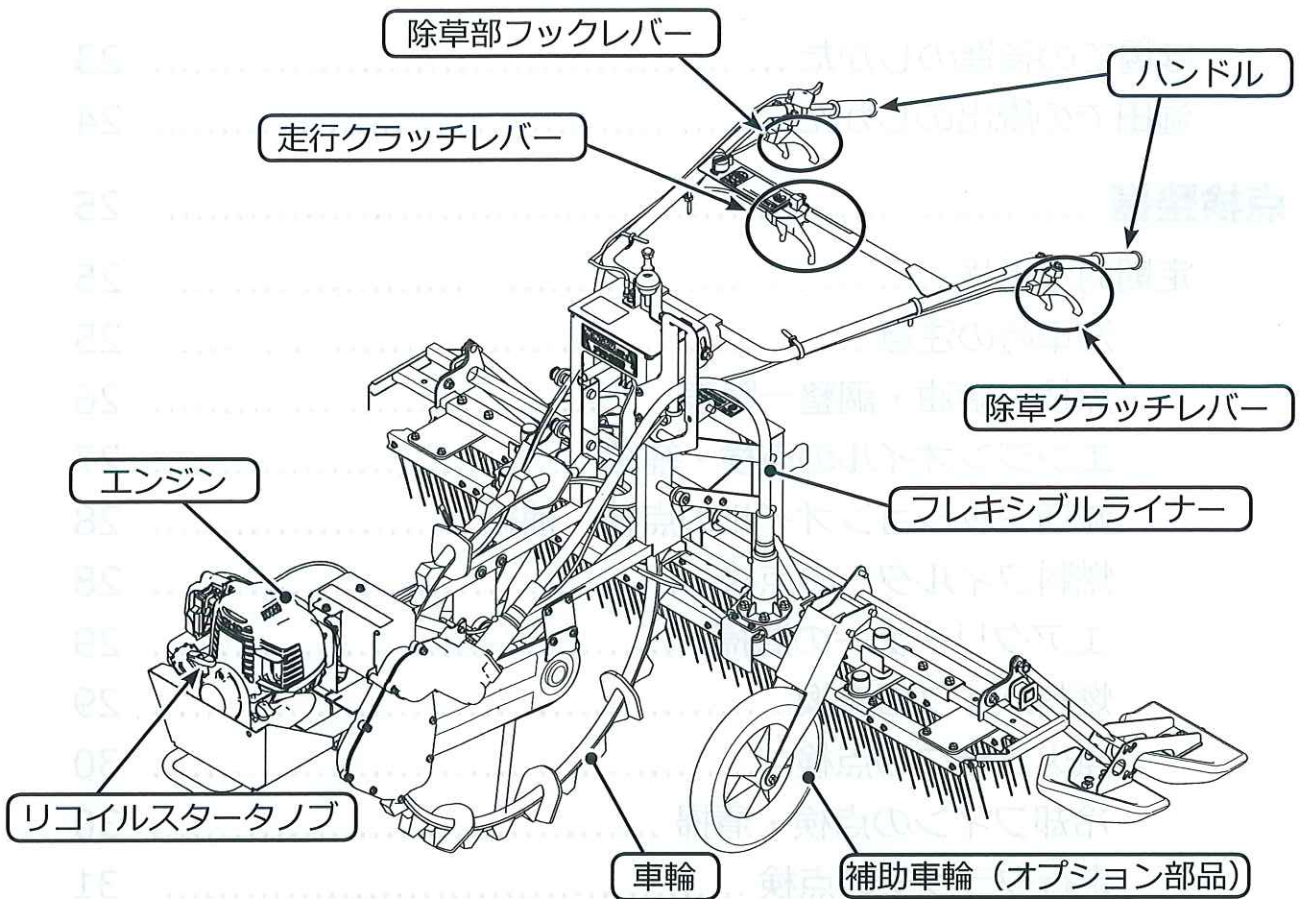
各部の名称 .....	1
各部のはたらき .....	2
安全に作業するために .....	6
安全表示ラベル .....	10
作業前の点検・注油 .....	11
燃料の給油 .....	11
エンジンオイルの点検・補給 .....	12
減速ミッションオイルの点検・補給 .....	13
注油箇所の点検 .....	14
ブラシの点検 .....	14
運転のしかた .....	15
始動のしかた .....	15
停止のしかた .....	15
発進のしかた .....	16
停止のしかた .....	16
移動のしかた .....	16
トラックへの積込み・積降ろし .....	17
運搬中の固定のしかた .....	18
ほ場への出入りのしかた .....	19
作業前の準備 .....	20
ほ場条件 .....	20
作業条件 .....	20
本機の準備 .....	21
フロート間隔（条間）の調節 .....	21
作業のしかた .....	22
除草作業の手順 .....	22
除草深さの調節 .....	22
ハンドル高さの調節 .....	22
感知バネ・感知ハンドルの調節 .....	23
旋回のしかた .....	23

# 目次

---

ほ場での後進のしかた .....	23
湿田での脱出のしかた .....	24
<b>点検整備</b> .....	<b>25</b>
定期的な点検 .....	25
洗車時の注意 .....	25
点検・給油・調整一覧表 .....	26
エンジンオイルの点検・補給 .....	27
減速ミッションオイルの点検・補給 .....	28
燃料フィルターの点検 .....	28
エアクリナーの清掃 .....	29
燃料パイプの交換 .....	29
点火プラグの点検 .....	30
冷却フィンの点検・清掃 .....	30
走行クラッチの点検 .....	31
除草クラッチの点検 .....	31
スロットルレバーの点検 .....	31
フレキシブルライナーのグリス塗布 .....	32
長期格納時の手入れ .....	33
長期格納時の手入れ .....	33
燃料の抜き取り方 .....	33
格納のしかた .....	33
<b>不調時の処置</b> .....	<b>34</b>
<b>サービス資料</b> .....	<b>35</b>
本機の保証 .....	35
サービスネット .....	35
補修用部品供給期間 .....	35
主要諸元 .....	35
消耗品 .....	36
オプション部品の紹介 .....	36
保証書 .....	裏表紙

# 各部の名称



## ■付属品

取扱説明書 (本書)

安全運転説明確認票



オイル抜き具

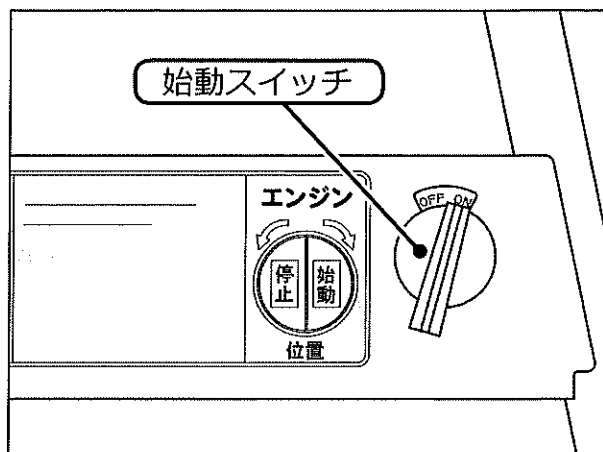
# 各部のはたらき

## ■始動スイッチ

### ▲注意

本機から離れるときは、エンジンを停止してください。これを守らないと本機が自然に動き出して大変危険です。

「ON」・・・リコイルスターターノブを引くと、エンジンが始動します。  
「OFF」・・・エンジンが停止します。

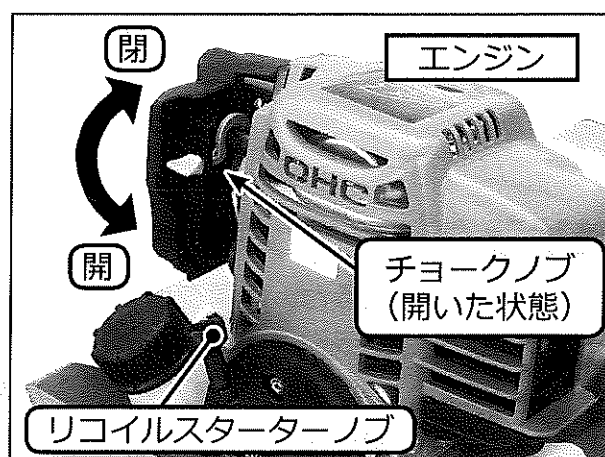


## ■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、チョークノブを閉じます。エンジン始動後は、すぐにチョークノブを「開」に戻してください。

### 重要

●始動時以外は、使用しないでください。

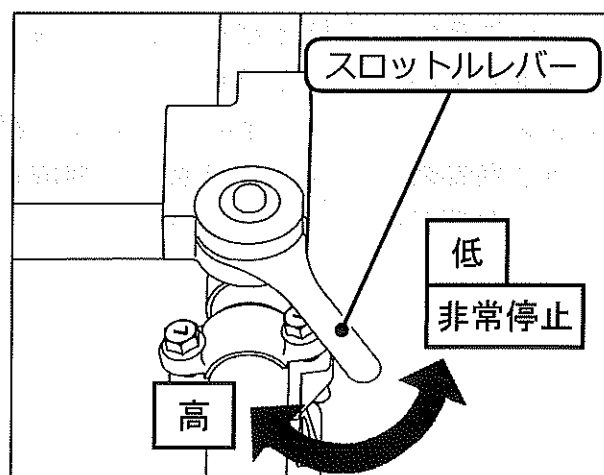


## ■スロットルレバー

### ▲注意

非常時には、スロットルレバーを「低」にして停止させてください。走行クラッチレバー等での操作はしないでください。これを守らないと、傷害事故を起こすおそれがあり大変危険です。

「低」・・・遠心クラッチが切れ、止まります。  
「高」・・・走行速度、ブラシ揺動速度が速くなります。



# 各部のはたらき

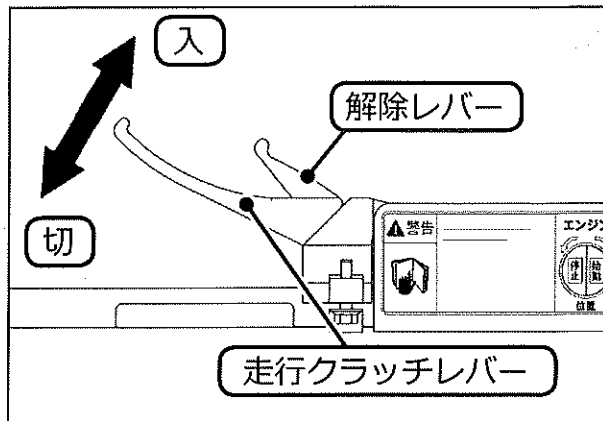
## ■走行クラッチレバー

### ▲注意

エンジンを始動するときは、必ず走行クラッチレバーを握って「切」にしてください。これを守らないと、本機が急発進して傷害事故を引き起こすおそれがあり、大変危険です。

除草時、および走行時は、走行クラッチレバーを「入」にしてください。

- 「切」…握ると、走行クラッチが切れ車輪への動力が断たれます。
- 「入」…走行クラッチが入り、走行します。



### 重要

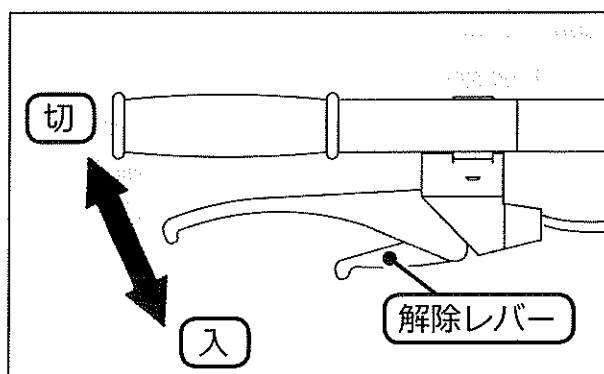
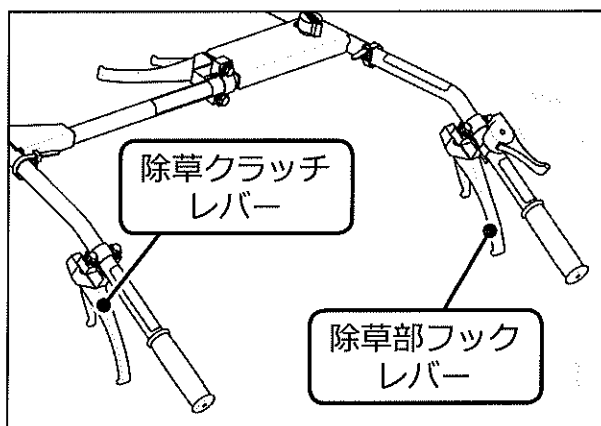
走行クラッチレバーをいっぱいまで握ると自動的にロックされます。解除レバーを握れば「入」になります。

## ■除草クラッチレバー

- 「切」…握ると、除草クラッチが切れブラシが停止します。
- 「入」…クラッチが入り、ブラシが駆動します。

### 重要

- ほ場以外で除草部の高速運転はしないでください。これを守らないと本機が破損するおそれがあります。
- 除草クラッチレバーをいっぱいまで握ると自動的にロックされます。解除レバーを握れば「入」になります。



# 各部のはたらき

## ■除草部フックレバー・ 除草部フック

- 「切」・・・握ると、除草部がフックから外れます。除草時は、除草部フックから外してください。
- 「入」・・・除草部がフックに固定されます。除草時以外は「入」にして、除草部をフックで固定してください。

### 重要

- 除草時以外は、除草部を固定します。
- 除草部フックレバーをいっぱいまで握ると自動的にロックされます。解除レバーを握れば「入」になります。

### 【固定の解除】

ハンドルを持ち上げながら、除草部フックレバーを「切」にし、除草部フックから外します。

### 【固定】

除草フックレバーを「入」にして、ハンドルを持ち上げながら除草部フックに引っ掛け、固定します。

- 回転時にフロートで苗を倒す場合、ほ場の出入りでフロートが地面と接触する場合は「上の除草部フック」で固定、点検時、運搬時、保管時は「下の除草部フック」で固定します。

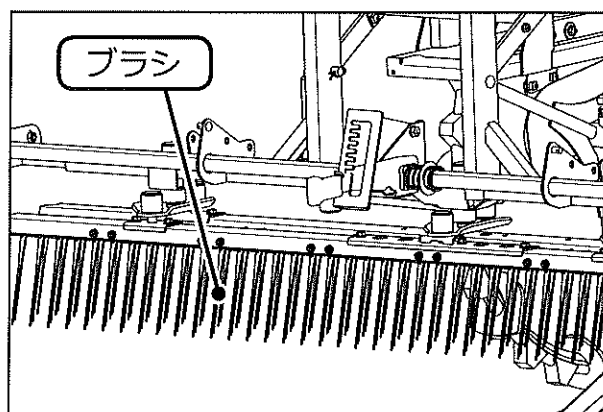


## ■ブラシ

前後2列のブラシが進行方向に対して交互に左右に動き、条間、株間の除草をします。

### 重要

保管時はブラシ先端に物を当てないようにします。これを怠るとブラシにクセがつき、除草効果が下がるおそれがあります。



# 各部のはたらき

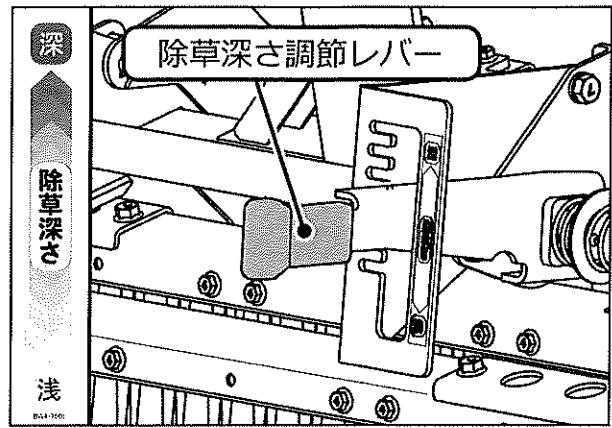
## ■除草深さ調節レバー

除草深さを、ほ場条件に合わせて調節するとき 사용합니다。

「深い」方向に操作すると、ブラシが田面に対して深い位置になり、「浅い」方向に操作すると田面に対して浅くなります。

### 重要

保管時は除草深さ調節レバーを一番「浅い」位置にします。



## ■感知バネ・感知ハンドル

ほ場の硬さに応じて、調節します。

調節するときは、感知目盛りマークを確認して行ってください。

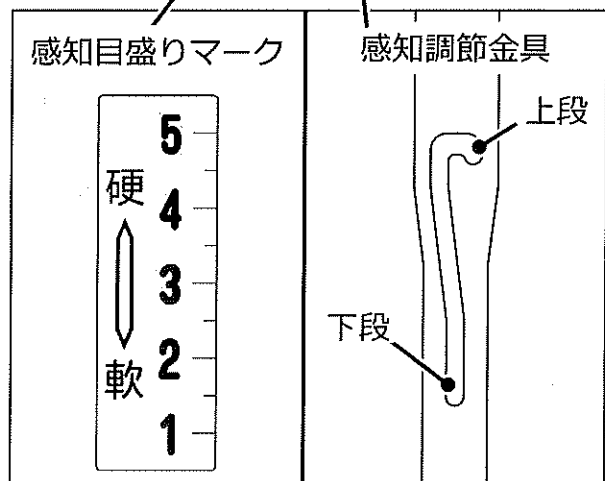
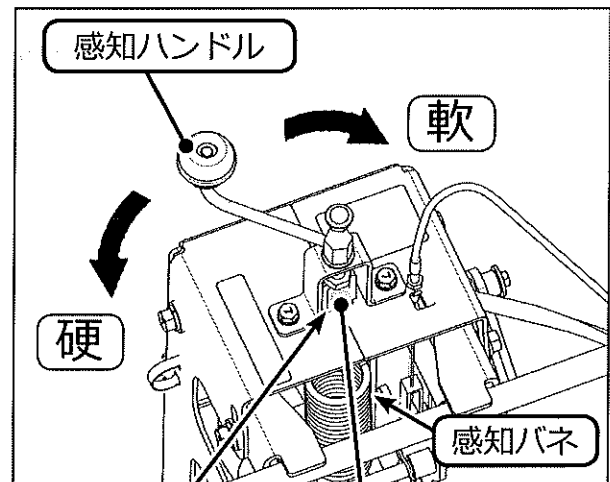
○軟らかいほ場で、フロートで泥を押しよるうな時は、感知バネを感知調節金具の上段にかけ、「軟」の方向へハンドルを回してください。

○硬いほ場で、フロートで強く整地を行ないたい場合は、感知バネを感知調節金具の上段にかけ、「硬」の方向へハンドルを回してください。

○硬いほ場で、除草部をフロートで受けて使いたい場合は、感知バネを感知調節金具の下段にかけて使用してください。

○硬いほ場では、感知バネを下段にかけると、左右バランスが安定します。

この場合は機体が水平になるようにハンドルを押し下げて使します。



# 安全に作業するために

本機の安全に係わる特性を、以下に記述します。内容を十分に理解された上で、安全に作業してください。

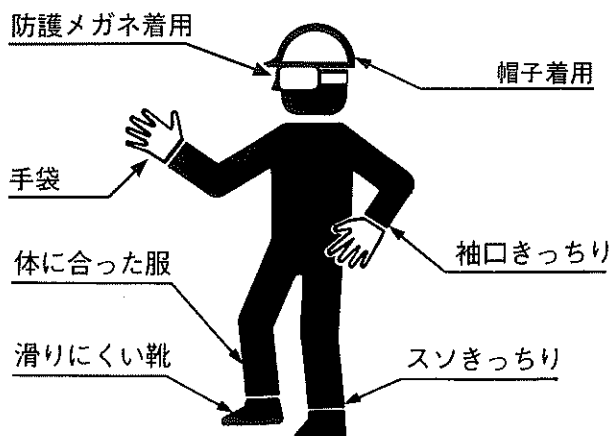
本機は、一般道路を走行することができません。移動する場合は、トラックなどにのせて運搬してください。

## 1. 安全指示順守して

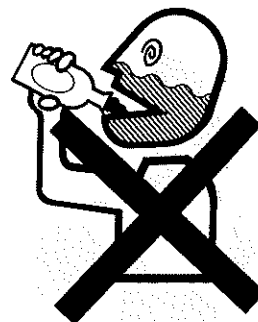
- 本機を使用する前に必ず、本書および本機に貼ってある安全表示ラベルをよく読み、理解した上で作業してください。
- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 本機を他人に貸すとき、また他人に作業を依頼するときは、取扱方法をよく説明し、本書を熟読するように指導してください。

## 2. 作業に合った服装及び健康状態

- 作業するときは、だぶついた衣服を着用しないでください。回転部にひっかかり事故の原因になります。
- 帽子、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴、防護メガネや手袋などを使用してください。



- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中の方、過労、病気の方は使用しないでください。



- 初めて運転する人は、運転に慣れるまで低速で運転してください。

## 3. 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中及び作業中本機に近づけないでください。見えないところで本機に触ったりかかれていたりして大変危険です。

## 4. 使用前の準備・点検

- 使用する前の点検は必ず行なってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・本機の点検は、エンジンを止めて行ってください。
- 点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、必ず取り付けてください。本機に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすことがあります。
- 火気厳禁。

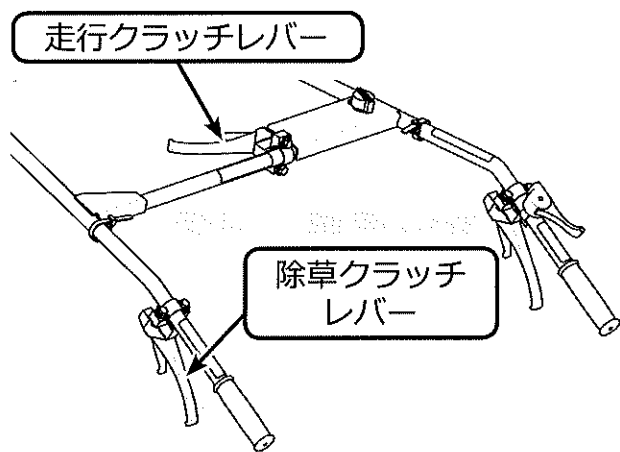
# 安全に作業するために

## 5. エンジンの始動と発進

○屋内で始動するときは、窓や扉を開け、外気が十分入るようにしてください。



○エンジンを始動するときは、**走行クラッチレバー**と**除草クラッチレバー**が「切」になっていることを確認してから始動してください。これを怠ると、急発進したりして大変危険です。



○エンジンを始動する時は、エンジンなどの上や周りに、ゴミや燃えやすいものがないことを十分確認してください。これを怠ると、火災の原因になります。

○発進するときは、周囲の人・物に十分注意し、ゆっくり発進してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## 6. 農道・ほ場の移動

○ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。接触事故や、転倒事故を引き起こす原因になります。

○カーブ、曲がり角では早めにスピードを落としてください。急旋回すると転倒事故につながります。

○凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地での高速移動はしないでください。路面状態に応じた安全な速度で移動してください。

○側溝のある農道や、両面が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒事故の危険性があります。

○本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。止める場所は平坦な所で、地面が硬く広い場所を選んでください。本機が自然に動きだしたりして大変危険です。

○下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには本機を置かないでください。火災の原因になります。

# 安全に作業するために

## 7.トラックなどへの積込み・積降ろし

○積込み・積降ろし作業を行なう際は、トラックのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行なって下さい。これを怠ると、トラックが動いて転落・傷害事故を引き起こすおそれがあります。

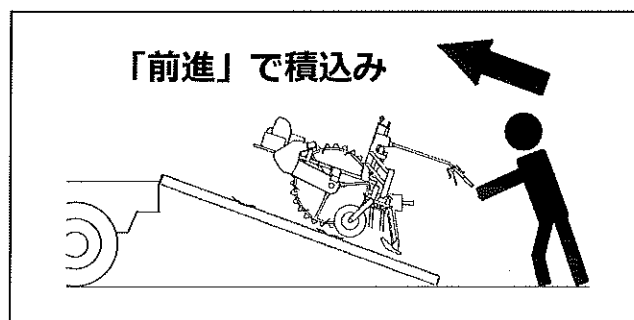
○積込み・積降ろし作業を行なう際は、必ず誘導者を付け、周囲の安全を十分確認しながら行なってください。また、誘導者を本機の直前や直後には、絶対に立たせないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

○アユミ板は、下表の基準以上のものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。これを怠ると転落事故の原因になり大変危険です。

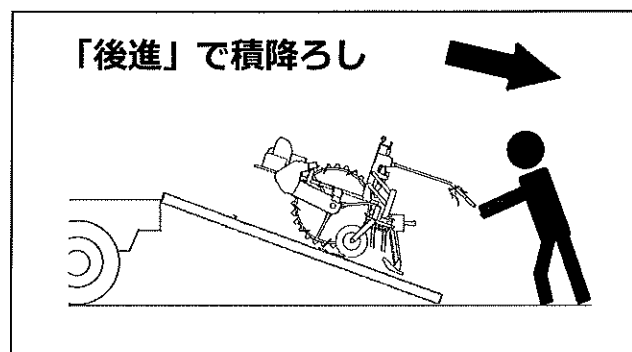
### ●アユミ板の基準

- ・長さ : 車の荷台の高さの4倍以上
- ・幅 : 30cm以上
- ・必要枚数 : 3枚
- ・強度 : 200 kg以上
- ・すべり止めのあるもの

○積込み作業を行なう際は、補助車輪を付け、本機のエンジンを始動し、アユミ板の上をゆっくりと走行して積込みしてください。(16ページ参照)。積込み作業中は、絶対に走行クラッチレバーを握らないでください。本機を支えきれず、傷害事故の原因になり大変危険です。



○積降ろし作業を行なう際は、「エンジンを停止」して、「後進」でゆっくりと降ろしてください(17ページ参照)。

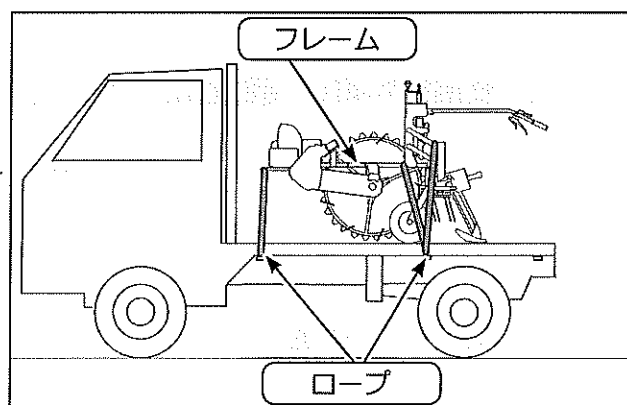


## 8.トラックなどでの運搬

○運搬中は走行クラッチレバーを「入」にしてください。

○除草深さ調節レバーを一番「浅い」にして、フロートを荷台に接地させてください。

○ロープは下図のようにかけ、本機フレームを荷台に確実に固定してください。(17ページ参照)



○長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみなどを確認してください。ジャリ道や凹凸のはげしい道はゆっくり走行してください。

# 安全に作業するために

## 9. ほ場での作業

- 作業中は、作業員以外の方は本機に近づかないでください。傷害事故を引き起こす原因になります。
- 作業を開始するときは、周囲の安全を十分確認してください。特に補助者とともに作業するときは、声をかけあって安全を確認してください。傷害事故を引き起こす原因になります。
- あぜを横断するときは、エンジンを低速にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや横転の原因となります。
- あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。
- 作業中は、ブラシ等の駆動部分や、エンジン等の過熱部など危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となります。

## 10. 夜間作業の禁止について

- 夜間作業は危険なので作業は早めに切り上げてください。

## 11. 点検・整備

- 本書に従って定期点検を実施してください。
- 点検・整備を行なうときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。

○点検・整備を行なう時は、適切な工具を正しく使用してください。まにあわせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こすおそれがあり大変危険です。

○エンジンを切ったすぐには、点検・整備をしないでください。エンジン・マフラー等の過熱部分が完全に冷めてから行なってください。

○点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。

○本書記載以外のアタッチメントの取り付けや改造は、絶対にしないでください。

## 12. 格納・保管

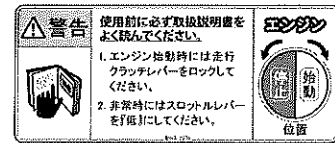
- 長期格納時は、燃料タンクおよび燃料ホースの燃料を抜き取ってください。
- 本機カバーなどをかける場合は、エンジンなどの過熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。

# 安全表示ラベル

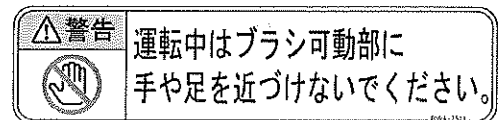
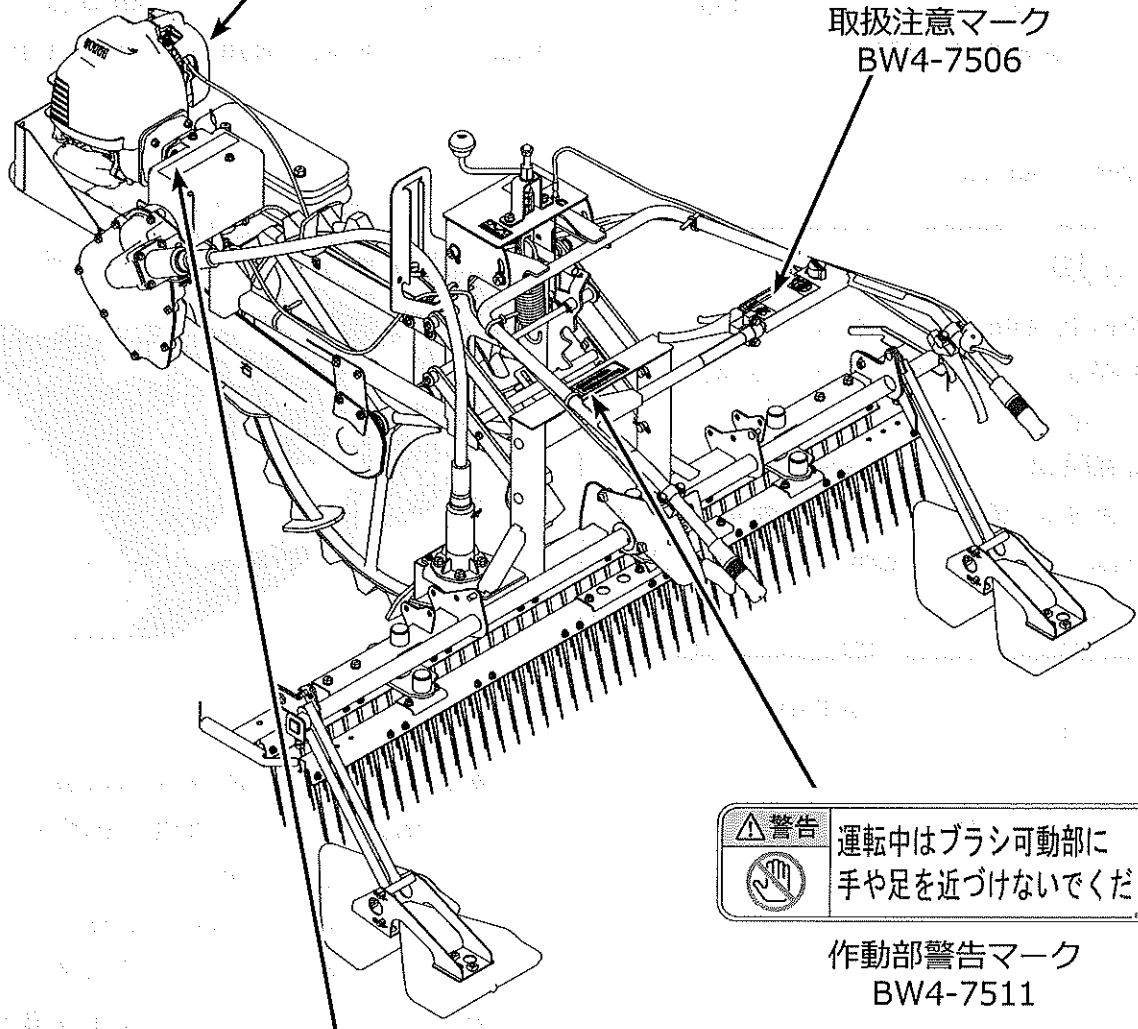
- 本機には、安全に作業していただくために安全表示ラベルが貼り付けています。必ずよく読み、これらの指示に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、はがれたり、読めなくなった場合は、販売店に連絡し、交換してください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼り付けてある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルも購入してください。



マーク、オペレーターコーション (エモジ)  
HN-87519-Z6J-000



取扱注意マーク  
BW4-7506



作動部警告マーク  
BW4-7511



火気厳禁警告マーク  
PWE121-6111

# 作業前の点検・注油

故障を未然に防ぐには、本機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。点検は作業前に必ず行なってください。

## ▲ 警告

点検・注油および点検整備するときは、次のことを守ってください。

- (1) 本機を平たんな広い場所に置く。
- (2) エンジンを停止する。
- (3) エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
- (4) くわえタバコなど火気厳禁。
- (5) 走行クラッチレバーを「入」にして、車輪をロックする。

以上の安全を確認して行なってください。

安全を確認せずに点検・整備・注油をすると傷害事故を引き起こすことがあります。

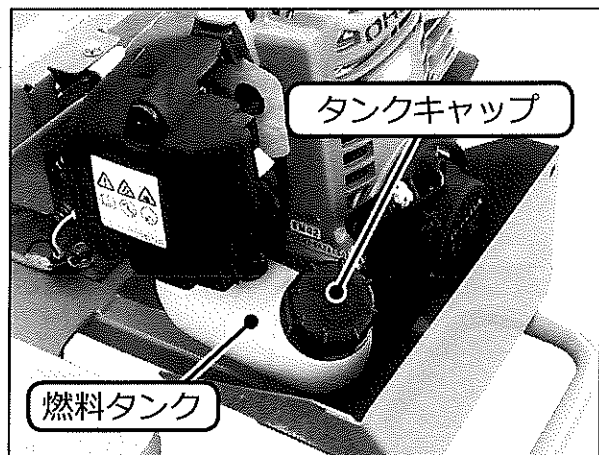
## 重要

点検・注油時は、除草深さ調節レバーを一番「浅い」にして、下の除草部フックにかけ除草部を固定してください。これを怠ると、本機が破損するおそれがあります。

## ■ 燃料の給油

### ▲ 危険

- 燃料を補給するときは、エンジンを停止し、過熱部分が十分冷えてから行なってください。
- 高温時は、タンクの内圧が上昇しています。タンクキャップを取り外す時は、軽く緩め燃料タンク内の圧力を抜いてください。



## 重要

- 燃料の保管は燃料専用容器を使って風通しのよい場所に保管し、4週間を目安に使い切ってください。これを怠ると燃料が変質し、エンジン不調の原因となります。
- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

燃料の種類	自動車用レギュラー ガソリン
燃料タンクの容量	0.64 L

- ① タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差をなくします。
  - ② タンクキャップを外し、ガソリンを補給します。
  - ③ タンクキャップの周りをよく拭き、異物が燃料タンク内に入るのを防いでください。
  - ④ 補給後、タンクキャップをしっかりと締め付けてください。
- ※ 燃料タンクキャップは消耗品です。傷、割れ等が見られる場合は交換してください。

# 作業前の点検・注油

## ■エンジンオイルの点検・補給

交換時期：初期 10 時間運転、  
その後 50 時間運転毎

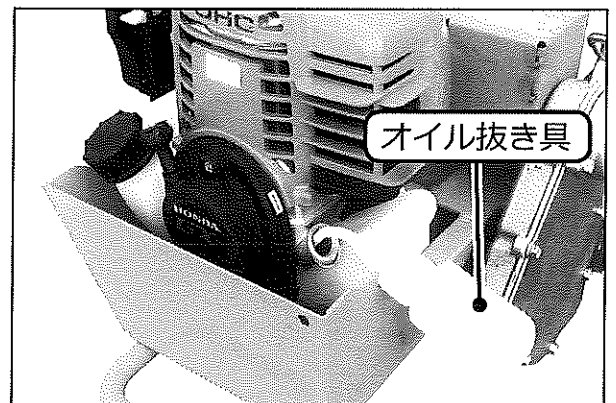
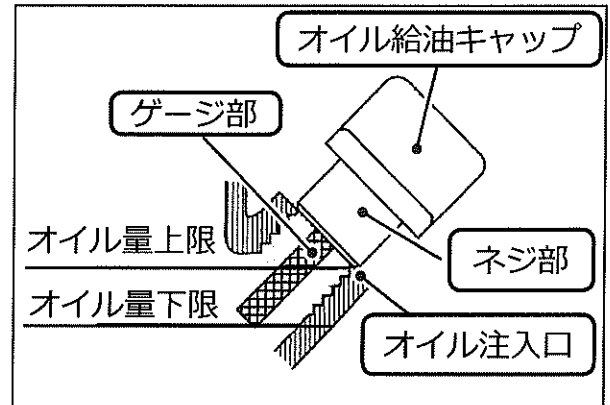
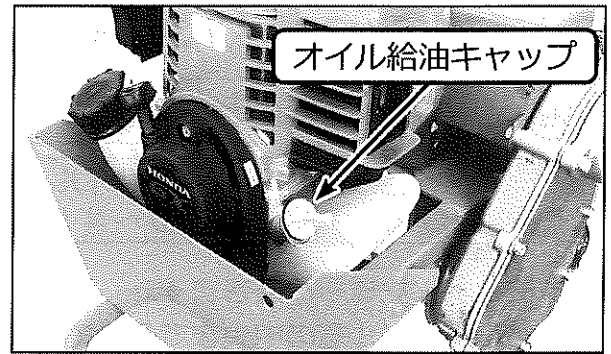
オイル容量	0.1L
推奨オイル	API 分類 S F 級以上の SAE 10W-30

- ①本機を水平にして、オイル給油キャップを外します。
- ②オイル注入口の口元までオイルがあるか点検します。
- ③オイル給油キャップのゲージ部の汚れをふき取ります。
- ④オイル給油キャップのネジ部をねじ込まずにオイル注入口に当てます。  
(右図参照)
- ⑤ゲージ先端部にオイルがつかなければ、オイル量が下限より少なくなっていますので新しいオイルを給油します。

### 重要

オイル量上限以上にオイルを補給しないでください。超えるとオイル汚れや白煙の原因になります。

- ⑥排出の際は、オイル抜き具で抜いてください。
- ⑦オイル給油キャップを確実に締めてください。
- ⑧オイル漏れがないかも調べてください。こぼれてしまったオイルはふき取ってから運転してください。



# 作業前の点検・注油

## ■減速ミッションオイルの点検・補給

点検時期：20 時間運転毎

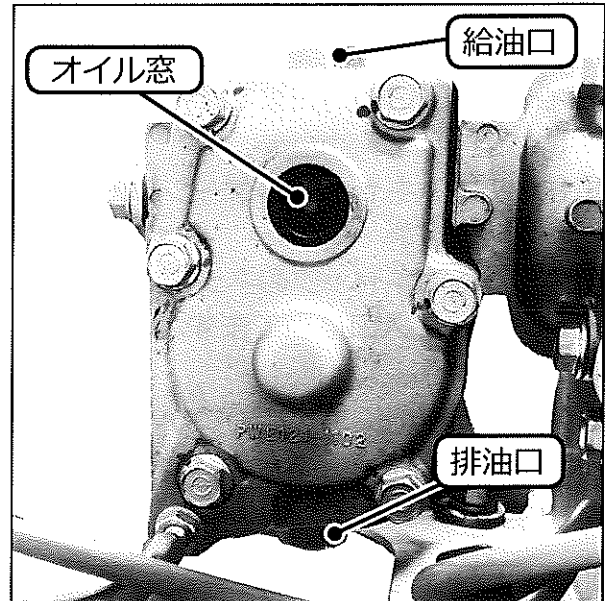
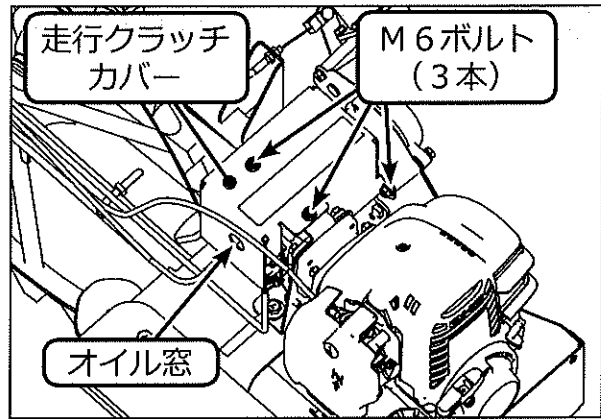
減速ミッション  
オイル

ギヤオイル  
# 80 ~ # 90

- ① 本機を水平な場所へ置きます。
- ② オイルがオイル窓の中央まで入っていることを点検して下さい。
- ③ オイルが不足している場合、走行クラッチカバーを外し、給油口のネジを外して、オイル窓の中央までオイルを補給してください。

### ●オイル交換のしかた

- ① 右図の排油口のネジを外し、オイルを抜いてください。
- ② 排油口のネジを締付後、給油口のネジを外し、オイル窓の中央までオイルを給油してください。
- ③ 給油後は、給油口のネジを締めて走行クラッチカバーを取り付けてください。



# 作業前の点検・注油

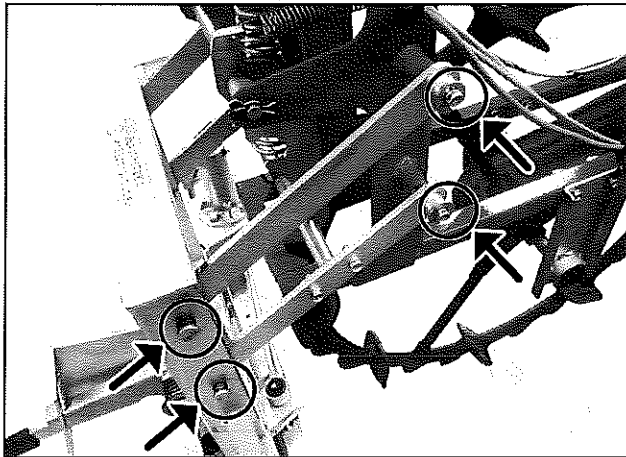
## ■注油箇所の点検

※ 本機の出荷時のグリスは、地球環境にやさしい生分解性グリスを使用しています。(フレキシブルライナーを除く)

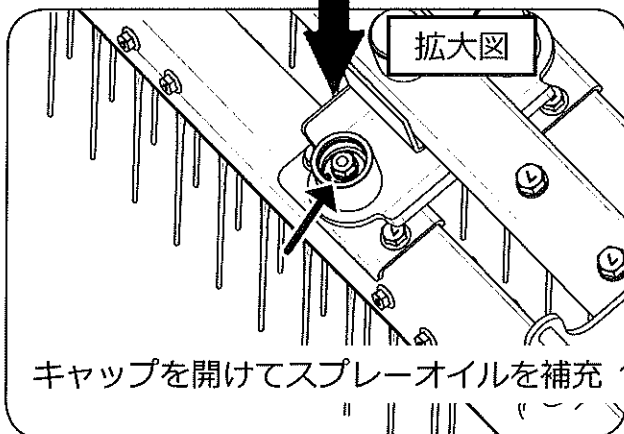
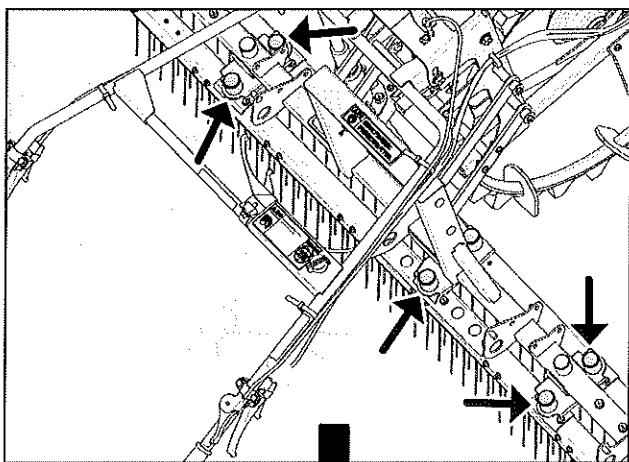
### ●グリス・油の注油

次の箇所は、シーズン毎注油してください。

#### ① リンク支点部 (左・右4ヶ所)



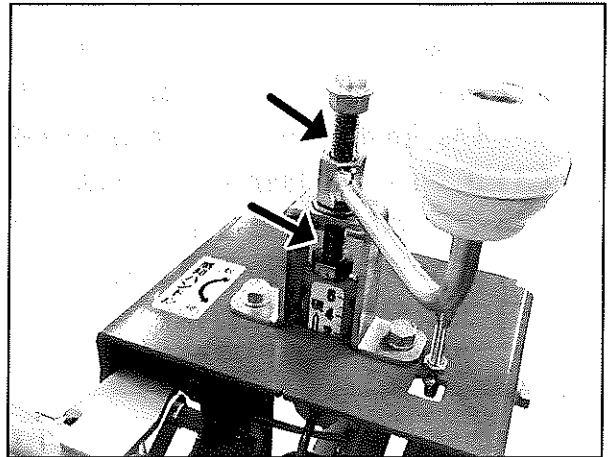
#### ② 除草ブラシ取付座支点部 (5ヶ所)



### 重要

注油後はキャップで蓋をします。

#### ③ 感知ハンドルのネジ部 (1ヶ所)



### 重要

注油部以外の場所にグリス、油が付着したときは布等で拭き取ってください。

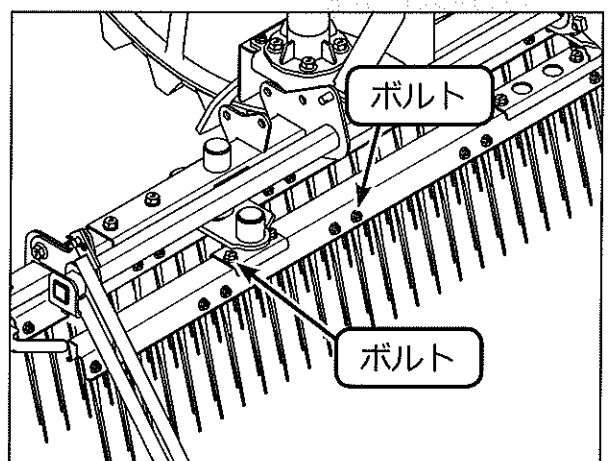
## ■ブラシの点検

異常がある場合は、購入先に連絡してください。

- ① 各ボルトにゆるみのないか確認してください。
- ② ブラシにガタがないか確認してください。

### 重要

毎日作業前には本機を水平な場所に置き、フックで除草部を固定してから点検してください。



# 運転のしかた

## ▲ 警告

- (1) 始動する前に安全カバー類が取り付けられているか確認してください。
- (2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開け、換気を十分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
- (3) エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーを「切」にし、周囲の安全を確認してから行ってください。怠ると急発進したりして大変危険です。
- (4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
- (5) エンジンなどに異常があったときは、直ちに始動スイッチを「停止」にしエンジンを停止させ、点検を行なってください。

## ■ 始動のしかた

- ① 始動スイッチを「ON」にします。
- ② 燃料がプライミングポンプに入るまで、プライミングポンプを3～4回押ししてください。
- ③ スロットルレバーを「低」にします。
- ④ チョークレバーを「全閉」にします。
- ⑤ 始動グリップを勢い良く引っ張ります。
- ⑥ 始動後、徐々にチョークレバーを「全開」に戻し、2～3分間暖気運転を行なってください。

## ■ 停止のしかた

### ▲ 注意

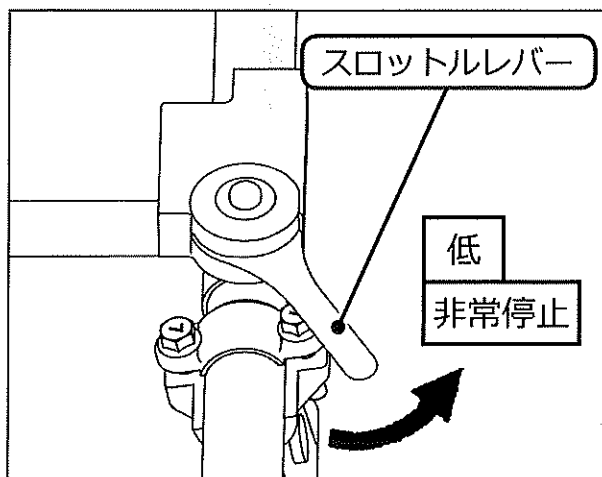
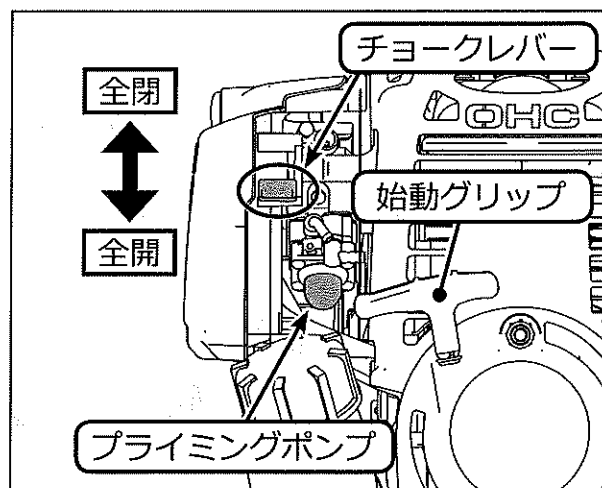
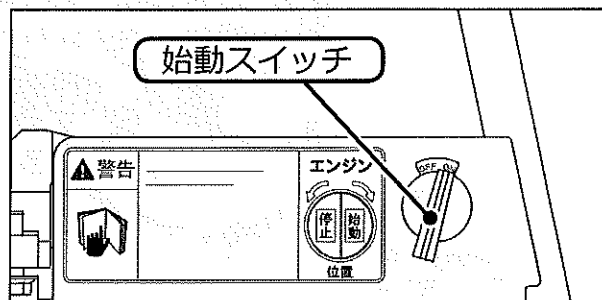
エンジン付近は、熱くなります。手などで触れないように注意してください。これを怠るとやけどをするおそれがあります。

### ● 通常時の停止のしかた

- ① スロットルレバーを「低」の位置にします。
- ② 始動スイッチを「OFF」にして停止させてください。

### ● 緊急時の停止のしかた

- ① 始動スイッチを「OFF」にして停止させてください。



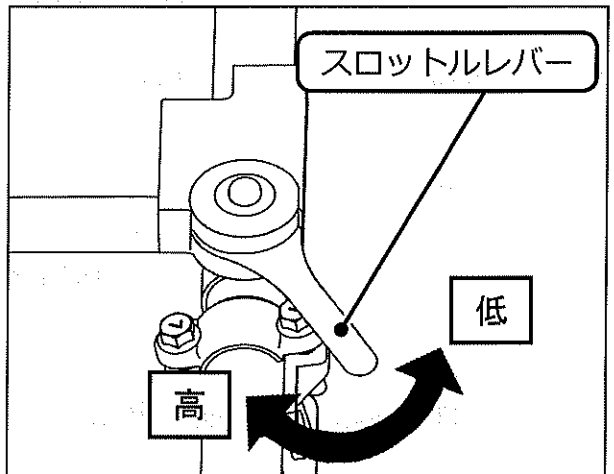
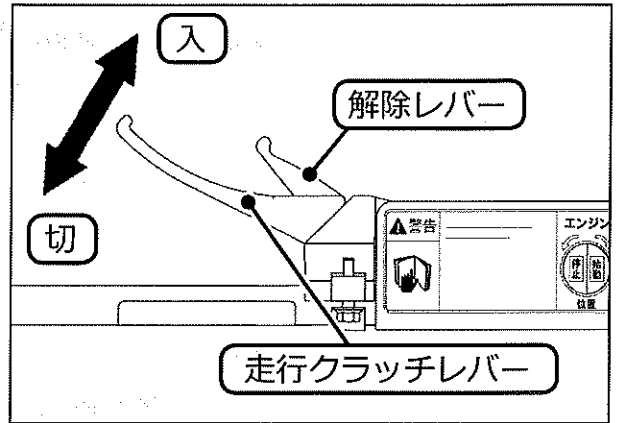
# 運転のしかた

## ■発進のしかた

### ▲注意

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- ① 走行クラッチレバーを「切」にして、エンジンを始動します。
- ② 解除レバーを握り、走行クラッチレバーを「入」にします。
- ③ スロットルレバーをゆっくり「高」にすると、発進します。



「高」……発進します。  
「低」……遠心クラッチが切れ止まります。

## ■停止のしかた

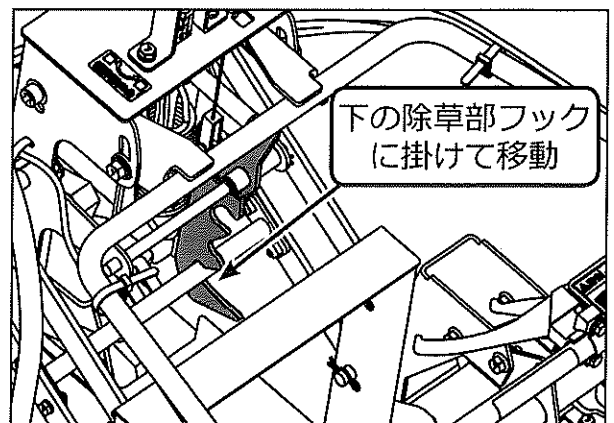
### ▲注意

非常時には、スロットルレバーを「低」にして停止させてください。走行クラッチレバー等での操作はしないでください。これを守らないと、傷害事故を起こすおそれがあり大変危険です。

- ① スロットルレバーを「低」の位置にします。
- ② 始動スイッチを「OFF」にしてエンジンを停止させてください。

## ■移動のしかた

- ① 除草クラッチレバーを「切」にします。(3ページ参照)
- ② 走行クラッチレバーを「切」にします。(3ページ参照)
- ③ 除草部フックレバーを操作し、除草部を下の除草部フックに掛け固定します。(3～4ページ参照)
- ④ ハンドルを持ち、本機を押して移動します。



# 運転のしかた

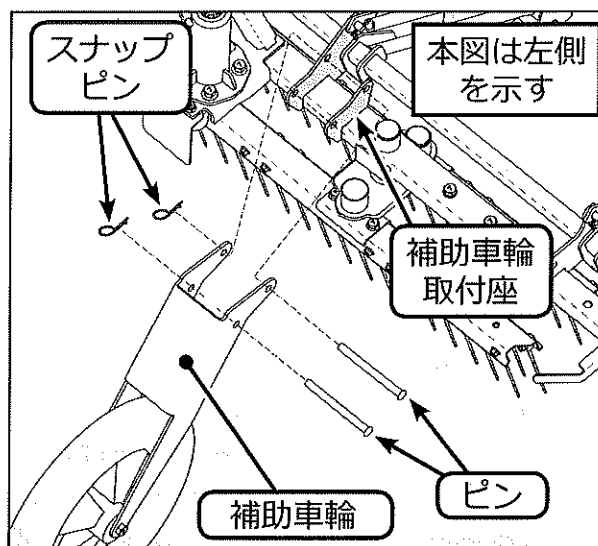
## ■トラックへの積込み・積降ろし

### ▲ 警告

- 積込むトラックのエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、車輪止めをして行ってください。
- 周囲に危険のない平坦で、地面の固い場所を選んでください。
- 積込み作業中は、絶対に走行クラッチレバーを握らないでください。本機を支えきれず、傷害事故の原因になり、大変危険です。
- 積込み・積降ろし作業は誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行ってください。また本機の直前や直後には絶対に立たせないでください。

### ● 補助車輪（オプション部品）の取り付け

- ① 補助車輪についているピン2本と、スナップピン2本を取り外します。
- ② 本機の補助車輪取付座の穴と補助車輪の穴を合わせます。
- ③ 先ほど取り外した、ピンとスナップピンで補助車輪取付座に補助車輪を取り付けます。
- ④ ①～③の手順で右側の補助車輪取付座に補助車輪を取り付けます。

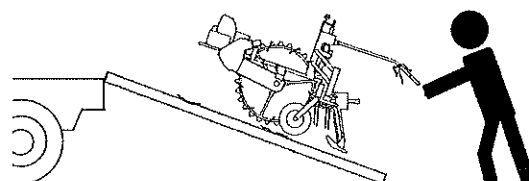


### ● トラックへの積込み

- ① 除草部フックレバーを操作し、除草部を下のフックに掛け固定します。
- ② 除草クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」にし、エンジンを始動します。
- ③ 走行クラッチレバーを「入」にし、スロットルレバーをゆっくり「高」にします。
- ④ アユミ板の上をまっすぐにゆっくりと「前進」して積込んでください。



「エンジンを始動」して、「前進」で積込み



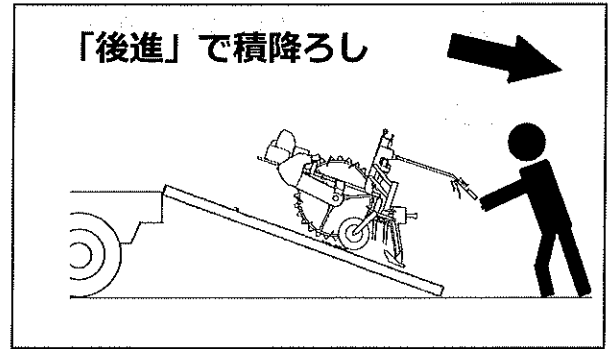
### ● アユミ板の基準

- ・ 長さ：車の荷台の高さの4倍以上
- ・ 幅：30cm以上
- ・ 数量：3枚
- ・ 強度：200kg以上
- ・ すべり止めのあるもの

# 運転のしかた

## ●トラックからの積降ろし

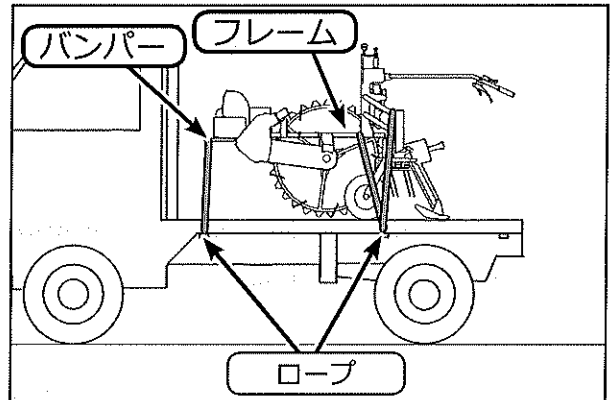
- ① 除草部フックレバーを操作し、除草部を下のフックに掛け固定します。
- ② 「エンジンを停止」し、「後進」でアユミ板の上をまっすぐにゆっくりと降ろしてください。



## ■運搬中の固定のしかた

### ▲ 警告

- 本機をトラック等で運搬する場合は、本機フレームを、必ずロープで荷台に確実に固定してください。
- 運搬中は運転に注意し、不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。
- ジャリ道や凹凸のはげしい道はゆっくり走行してください。本機が移動して大変危険です。
- また、長距離を運搬する場合は、安全のために、途中でロープのゆるみ等を確認してください。



### 重要

- バンパーとフレーム以外には、ロープを強くかけないでください。
- 除草部が跳ねないように、上図のようにロープで軽く押えてください。
- 運搬時は、除草部を下のフックにかけてください。これを怠ると運搬中の振動で除草部が破損するおそれがあります。

- ① 荷台に載せ終わると、エンジンを停止します。
- ② 走行クラッチレバーは「入」、除草深さ調節レバーは一番「浅い」にして、フロートを荷台に接地します。
- ③ 右図のようにバンパー、フレームにロープをかけてください。また、除草部が跳ねないようにロープで軽く押えてください。

# 運転のしかた

## ■ほ場への出入りのしかた

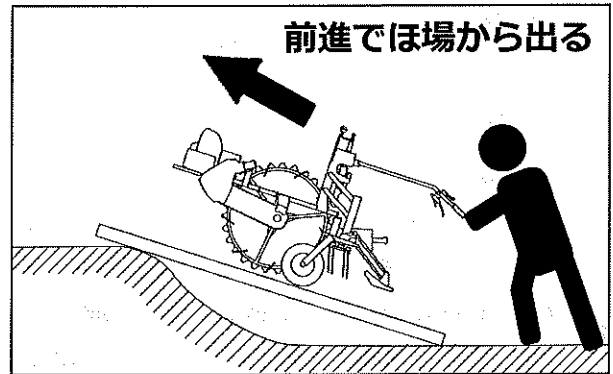
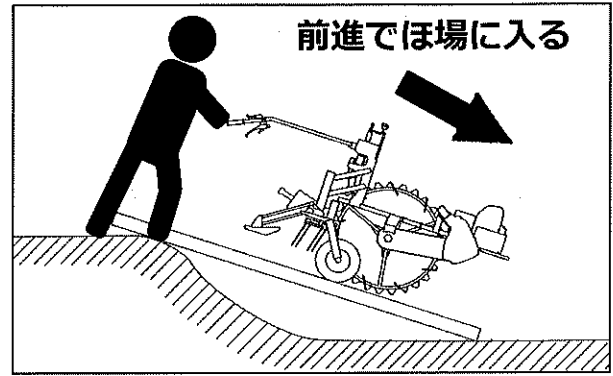
### ▲警告

ほ場との高低差が大きい場合は、アユミ板を使用してください。  
無理に出入りすると、転倒の原因となり、大変危険です。

### ▲注意

ほ場への出入りや畦越えをする場合は、速度を落として進んでください。  
畦や斜面に対して「前進」で走行し、必ず畦に直角にゆっくり進んでください。斜めになるとスリップや横転の原因となり大変危険です。

- ①除草クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」にし、エンジンを始動します。
- ②除草部フックレバーを操作し、上のフックに掛け除草部を固定します。
- ③走行クラッチレバーを「入」にし、スロットルレバーをゆっくり「高」にします。
- ④アユミ板の上をまっすぐにゆっくりと「前進」でほ場から出入りしてください。



### 重要

- ほ場に入ったり出るときは、除草部を上フックにかけ、障害物に当たらないようにしてください。
- 高低差が大きい場所を移動するときはアユミ板を使用してください。除草部に衝撃が加わり、変形するおそれがあります。

# 作業前の準備

## ■ほ場条件

- 代かきは丁寧に行ない、高低差を小さくしてください。また田植前の代かきは浅水で行ない、ほ場に稲株が残らないようにします。
- 除草前は水を張った状態で、表層のトロトロ層を壊さないようにしてください。硬いほ場では除草効果が低くなります。
- ほ場の硬さは、やや軟らかめの硬さが最適です。歩いて足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、除草効果が低くなります。
- 除草適期は、初回は苗が活着後（田植から5～7日後）です。稲・雑草の生育状況を見ながら早めに行なってください。
- 除草時の水深は、3～5cmが理想です。水が少なすぎたり、多すぎたりすると除草効果の低下、および欠株の原因となります。
- 代かき後1か月以上経過すると田面が硬くなり、本機に無理な力がかかり故障の原因になります。また本機を入れるほ場は期間中、水を干さないでください。田面が乾くと硬くなります。

## ■作業条件

本機は、稲と雑草の生育差を利用して、除草を行なうものです。直播など、稲と雑草の生育差が生じない場合は使用できません。水稻にダメージを与えず、効果的な除草のために以下の点に注意してご使用ください。

### ●除草時期

除草時期は、地域や田植時期によって異なります。除草効果をより上げるために**1回目の除草作業は、苗が活着したら速やかに行なってください。**

3回目の除草作業は必要に応じて行なってください。

雑草が目視できるほどに成長してからでは十分な除草効果が得られない場合があります。

○除草時期の目安

1回目・・・田植後5～7日

2回目・・・1回目の除草後7～10日

必要に応じて、3回目・・・2回目の除草後7～10日

### 重要

- 苗が水没していたり、土が露出しているほ場での作業は行なわないでください。
- 直播ほ場のような、硬いほ場での作業は行なわないでください。破損の原因になります。
- 除草作業の成功には1回目の除草が最も重要です。苗が活着したら速やかに1回目の除草を行なってください。苗を引っ張ってみて、抵抗感があり、活着していれば活着しています。
- 雑草が多いほ場は、1回目を田植後5日、2回目を1回目の除草後7日、3回目を2回目の除草後7日で除草します。
- ブラシの先端が田面から2～3cm入った状態で除草します。
- 多年生雑草（クログワイ、オモダカ等）には効果がありません。

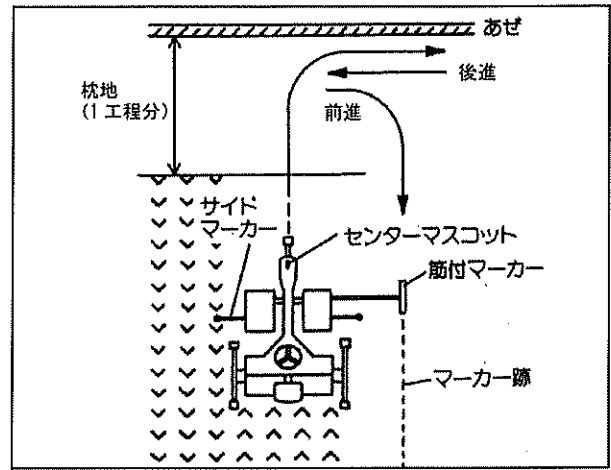
# 作業前の準備

## ●田植時の旋回について

機械除草作業は枕地の旋回部分で特に欠株が発生します。

右図のように田植え時に枕地を1工程分にするると枕地旋回による欠株が最小限になります。

隣接条を少し広めにする等の工夫で除草作業時の条合わせが容易になります。

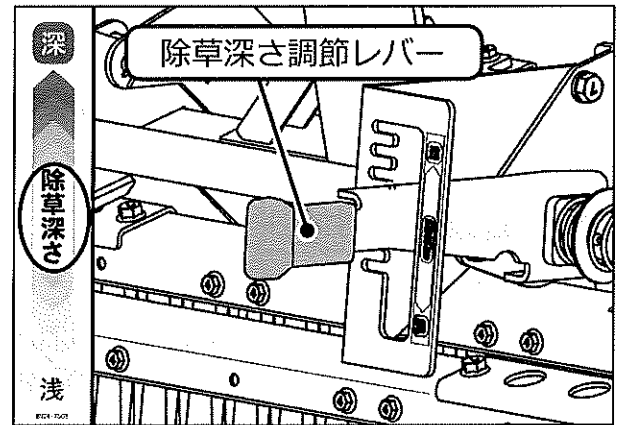


## ■本機の準備

- ①作業はじめは、除草深さ調節レバーを「中段」の深さ、感知ハンドルが目盛りは「5」にしてください。
- ②作業をしながら除草効果を見て各部の調節をしてください。

### 重要

- ブラシによる苗傷みがないか確認しながら作業を行ないます。苗の活着が悪く欠株が発生する場合は速度を落として作業を行なってください。
- ほ場に入るときは、ブラシやフロートが地面に接触しないようにしてください。



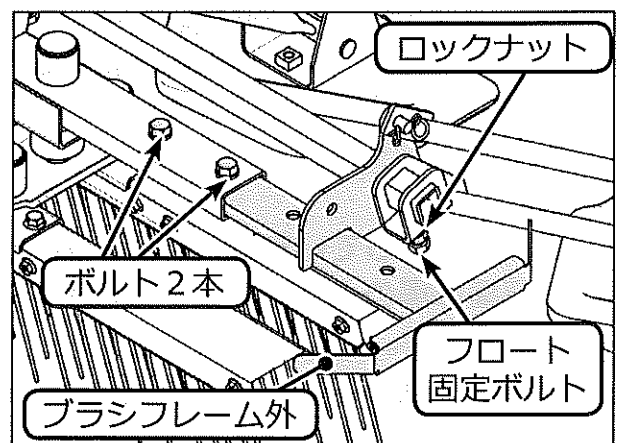
## ■フロート間隔 (条間) の調節

フロートの間隔は、田植機の条間に合わせて30cm、33cmに調節できます。(出荷時は30cmに設定しています)

### ●33cm間隔にする場合

- ①ボルト2本×2を外します。
- ②ロックナットとフロート固定ボルトをゆるめます。
- ③ブラシフレーム外を穴1つ分外側へ引き出します。
- ④外したボルト2本を先ほど外した場所に戻し、締めます。  
(締付トルク・・・17～23N・m)
- ⑤ロックナットをフロート固定ボルトを締めます。  
(締付トルク・・・12～16N・m)

条間33cmの取付位置 (本図は左側)



# 作業のしかた

## ■除草作業の手順

### ▲警告

- 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないように十分注意してください。
- ブラシ等の可動部には近づかないでください。ケガをする場合があります。

### ▲注意

- 補助者と共同作業を行なうときは、お互いに十分注意・合図をし合って安全に作業を行なってください。
- 異常が発生したときや、各部の調節を行なうときはエンジンを必ず停止してください。

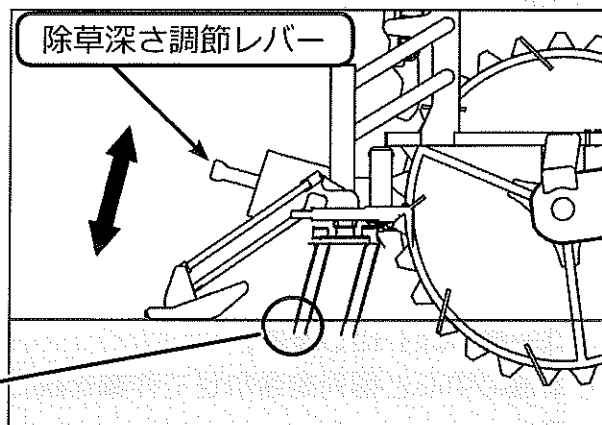
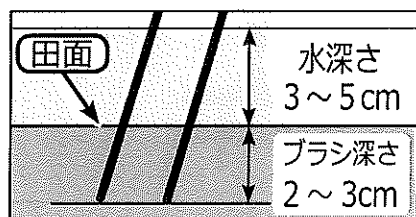
- ① 走行クラッチレバーを「入」にします。
- ② 除草クラッチレバーを「入」にします。
- ③ 除草部フックレバーを「切」にし、除草部をフックから外します。
- ④ スロットルレバーを「高」にします。ブラシが駆動し、走行を開始します。
- ⑤ 1 mほど走行したら、一旦作業を中断し、必要に応じて各部の調節をしてから連続作業をします。

### 重要

- 本機が水平になるようにハンドル高さ、および感知ハンドルを調節して使用してください。

## ■除草深さの調節

除草深さ調節レバーを操作し、ブラシの先端が田面に2～3 cm入るように調節します。

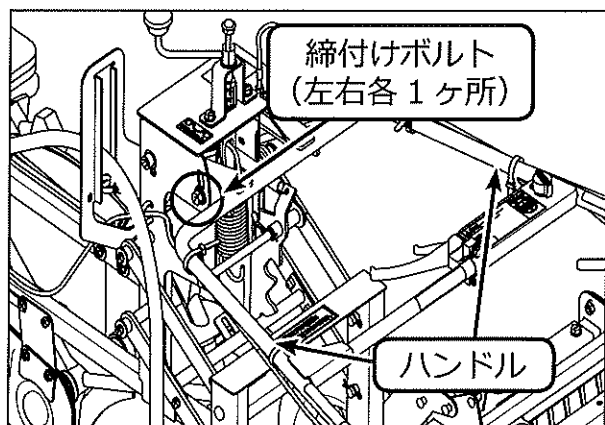


## ■ハンドル高さの調節

### ▲注意

ハンドル高さの調節をする時は、必ずエンジンを停止してから行なってください。これを怠るとケガをするおそれがあります。

締付けボルトをゆるめ、使いやすい高さに調節します。



# 作業のしかた

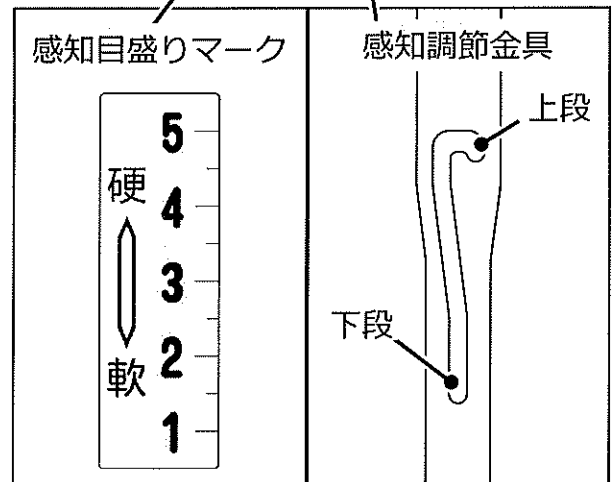
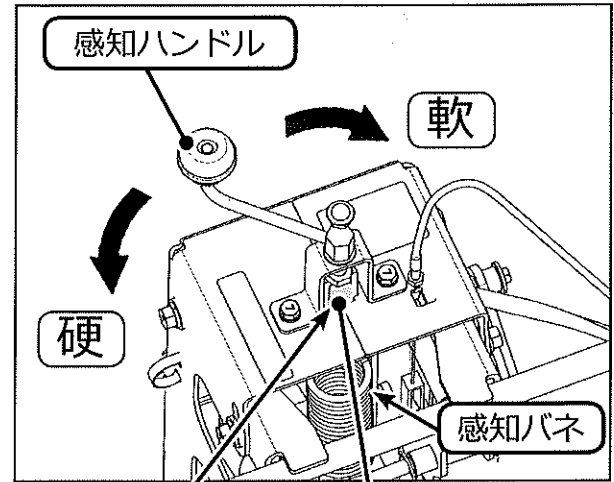
## ■感知バネ・感知ハンドルの調節

○軟らかいほ場で、フロートで泥を押しよ  
うな時は、感知バネを感知調節金具の上  
段にかけ、「軟」の方向へハンドルを回し  
てください。

○硬いほ場で、フロートで強く整地を行な  
いたい場合は、感知バネを感知調節金具  
の上段にかけ、「硬」の方向へハンドルを  
回してください。

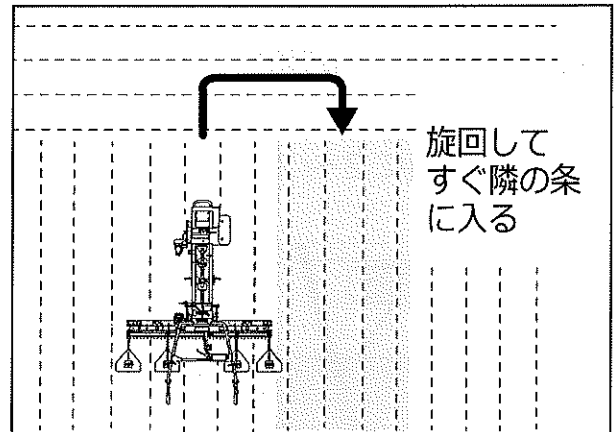
○硬いほ場で、除草部をフロートで受けて  
使いたい場合は、感知バネを感知調節金  
具の下段にかけて使用してください。

○硬いほ場では、感知バネを下段にかけ  
ると、左右バランスが安定します。  
この場合は機体が水平になるようにハン  
ドルを押し下げて使用します。



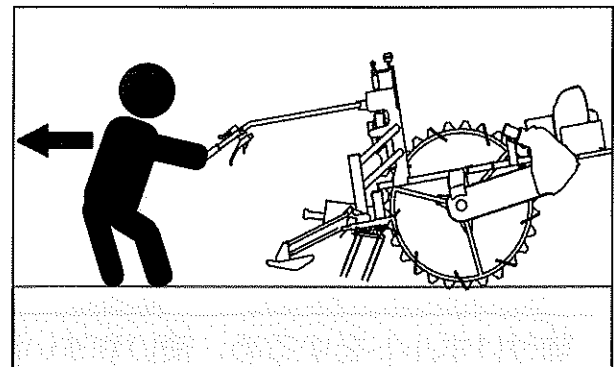
## ■旋回のしかた

- ①畦に近づいたらスロットルレバーを「低」  
に戻し、除草クラッチレバーを「切」にし  
ます。
- ②スロットルレバーを「高」にして旋回し、  
すぐ隣の条に入ります。
- ③旋回後、条間を合わせて除草クラッチレ  
バーを「入」にします。
- ④本機を中心と稲列を合わせて作業を続けま  
す。



## ■ほ場内での後進のしかた

- ①スロットルレバーを「低」に戻します。
- ②走行クラッチレバーを「切」にして、ハン  
ドルを持ち後方へ引っ張ります。



# 作業のしかた

## ■湿田での脱出のしかた

- ① 車輪に負担をかけないように、除草部が常に表土に下りている状態にします。
- ② 車輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして車輪の下にアユミ板を引きます。
- ③ スロットルレバーを「低」から「高」へ繰り返し操作して、ゆっくりと自力で脱出させてください。

### 重要

深いほ場で沈んで、本機から異音が生じたり、車輪がスリップして前進できなくなった場合は、絶対に本機をトラクター等で引っ張らないでください。本機が破損するおそれがあります。

# 点検整備

## 定期的な点検

### ⚠ 危険

- 燃料・オイルの交換時は火気厳禁で行なってください。

### ⚠ 警告

点検整備するときは、次のことを守って行なってください。  
安全を確認せずに点検整備をすると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- ① 本機を平たんな広い場所に置く。
- ② エンジンを停止する。
- ③ エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
- ④ くわえタバコなど火気厳禁。
- ⑤ ヘルメット・安全靴・手袋等適正な防護具を着用する。
- ⑥ 適切な工具や器具を使用する。
- ⑦ カバー類はきちんと元通りに取り付ける。

## ■ 洗車時の注意

高压洗浄機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、本機を破損・損傷・故障させることがありますので、高压洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

### 重要

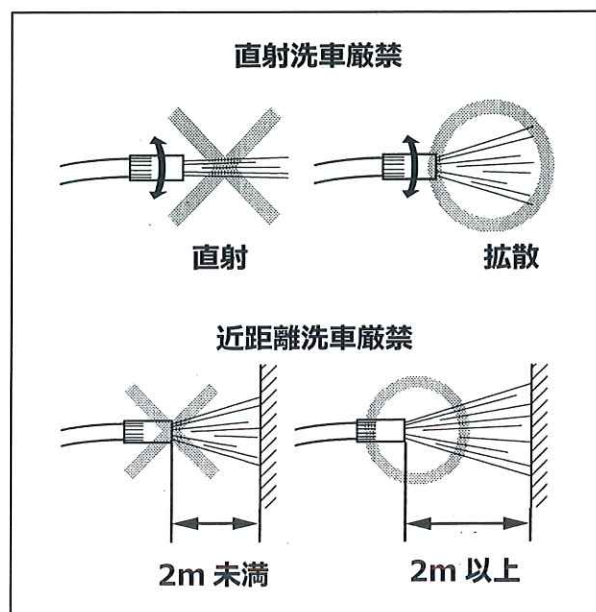
- 本機を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、本機の破損・損傷・故障の原因になります。

例①：シール・ラベル、塗装・メッキ等の剥がれ

②：エンジン、電装部品への浸水による故障

③：オイルシール等へのゴム類、樹脂部品等の破損

- 除草部を動かした状態で洗車はしないでください。破損の原因になります。



# 点検整備

300 000 000

## ■点検・給油・調整一覧表

○：点検・補給 △：清掃 ×：調整、交換

点検・給油項目		点検時期			備考	参照ページ
		毎日	20時間	50時間		
エンジン部	エンジンオイル	○		×	約 10 時間おきに補給 初回のみ 10 時間で交換 API 分類 SF 級以上の SAE10W-30	27
	燃料フィルター			○	フィルターのつまり確認	28
	点火プラグ			△		30
	エアクリーナー		△	△		29
	冷却フィン			○		30
	燃料パイプ	○			毎年（200 時間運転毎）交換	29
	指定注油箇所	○		×		14
	減速ミッションオイル		○		ギヤオイル# 80 ~ # 90	28
	走行クラッチ	○			作業前に点検	31
	除草クラッチ	○			作業前に点検	31
	スロットルレバー	○			作業前に点検	31
	フレキシブルライナー		○		20 時間ごとに耐熱グリスを塗布	32

オイル交換等で出た廃油を投棄・焼却する等みだりに処分しますと、水質汚濁、土壌汚染、大気汚染につながりますので販売店またはガソリンスタンドにご相談ください。

# 点検整備

## ■エンジンオイルの点検・補給

交換時期：初期 10 時間運転、  
その後 50 時間運転毎

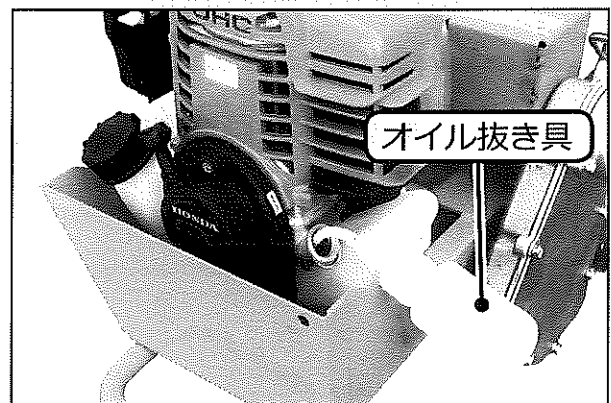
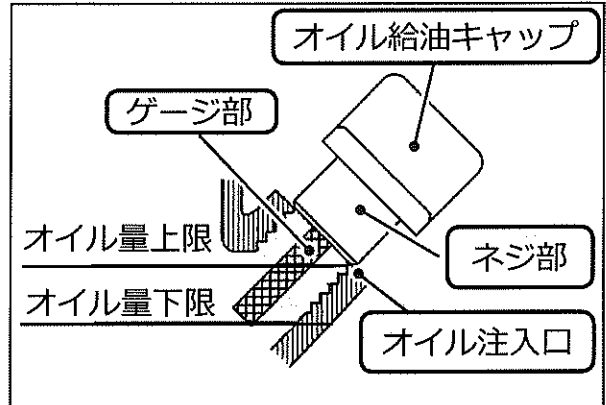
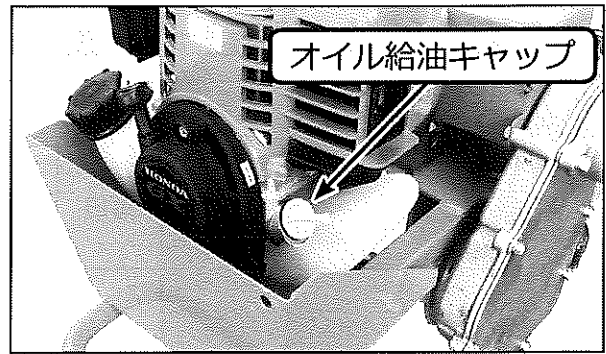
オイル容量	0.1L
推奨オイル	API 分類 S F 級以上の SAE 10W-30

- ①本機を水平にして、オイル給油キャップを外します。
- ②オイル注入口の口元までオイルがあるか点検します。
- ③オイル給油キャップのゲージ部の汚れをふき取ります。
- ④オイル給油キャップのネジ部をねじ込まずにオイル注入口に当てます。  
(右図参照)
- ⑤ゲージ先端部にオイルがつかなければ、オイル量が下限より少なくなっていますので新しいオイルを給油します。

### 重要

オイル量上限以上にオイルを補給しないでください。超えるとオイル汚れや白煙の原因になります。

- ⑥排出の際は、オイル抜き具で抜いてください。
- ⑦オイル給油キャップを確実に締めてください。
- ⑧オイル漏れがないかも調べてください。こぼれてしまったオイルはふき取ってから運転してください。



# 点検整備

## ■減速ミッションオイルの点検・補給

点検時期：20 時間運転毎

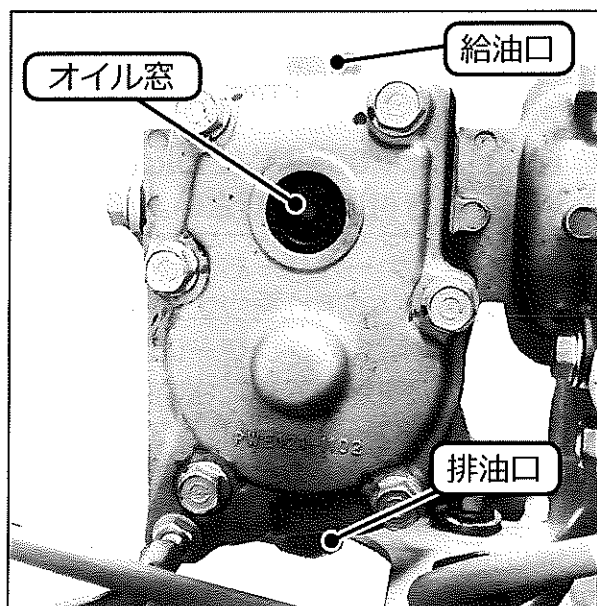
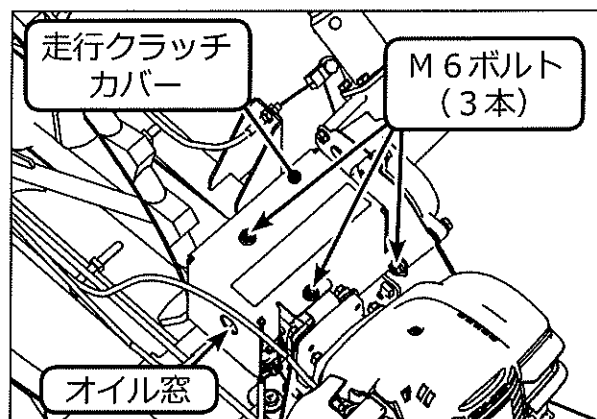
減速ミッション  
オイル

ギヤオイル  
# 80 ~ # 90

- ① 本機を水平な場所へ置きます。
- ② オイルがオイル窓の中央まで入っていることを点検して下さい。
- ③ オイルが不足している場合、M6 ボルト (3 本) を外して走行クラッチカバーを外し、給油口のネジを外して、オイル窓の中央までオイルを補給してください。

### ●オイル交換のしかた

- ① 右図の排油口のネジを外し、オイルを抜いてください。
- ② 排油口のネジを締付後、給油口のネジを外し、オイル窓の中央までオイルを給油してください。
- ③ 給油後は、給油口のネジを締めて走行クラッチカバーを取り付けてください。



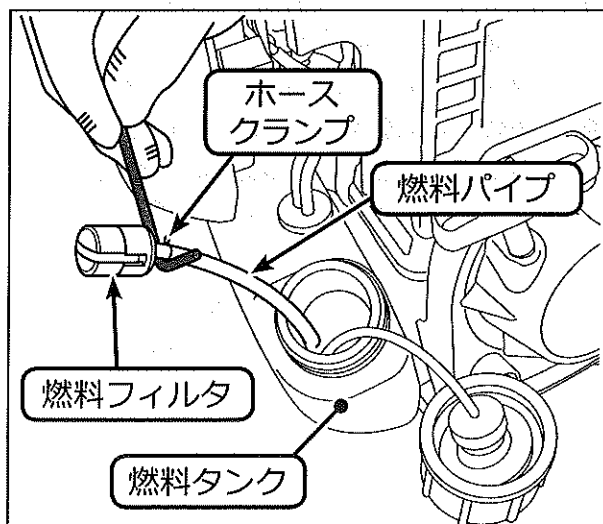
## ■燃料フィルターの点検

### ▲危険

- 点検・交換時は火気厳禁で行なってください。

点検時期：毎月 1 回か 50 時間運転毎

- 燃料タンク内の燃料パイプ先端についている燃料フィルターをパイプから引き抜き、洗浄します。
- 燃料フィルターの汚れがひどいものや、燃料パイプがひび割れているものは、交換してください。



# 点検整備

## ■エアクリーナーの清掃

清掃時期：20時間運転毎

- ① エアクリーナーカバーのスクリューを緩め、下部の合せ部を離してエアクリーナーカバーを外します。
- ② ろ過部（紙製）を取り外します。
- ③ チョークレバー全閉側にし、キャブレターにゴミなどが入るのを防ぎます。
- ④ ろ過部（紙製）の内側から圧縮空気を吹き付けるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。

### 重要

- 圧縮空気は200kPa (2.0kgf/cm<sup>2</sup>) 以下で吹き付けてください。

- ⑤ エアクリーナーカバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。この時キャブレターにゴミ等が入らないように注意してください。
- ⑥ ろ過部（紙製）を取り付け、エアクリーナーカバーの下部の合せ部を合わせ、スクリューを締めこみエアクリーナーカバーを取り付けます。

### 重要

- エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが速く摩耗する原因になります。
- 紙製のろ過部をオイルや洗い油で濡らさないでください。目詰まりを起こし、エンジンに悪影響を与えます。

## ■燃料パイプの交換

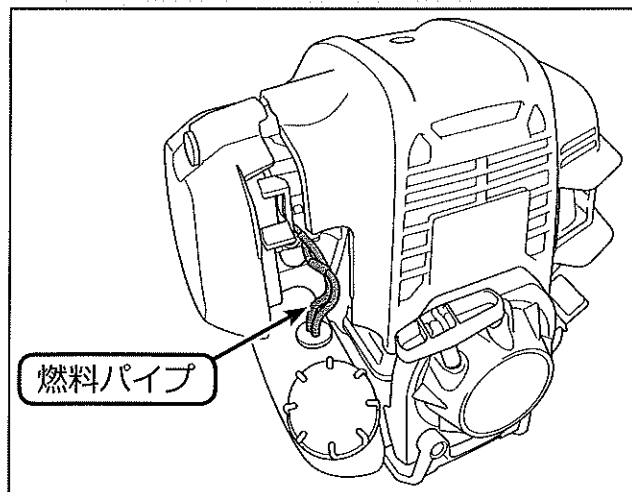
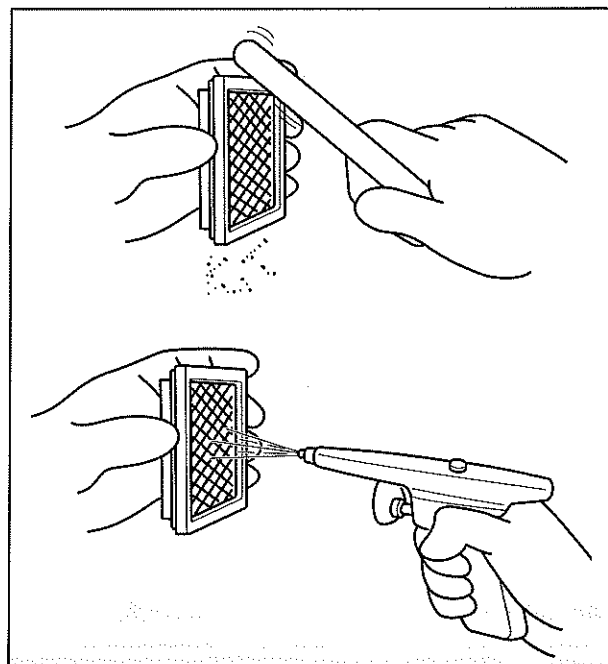
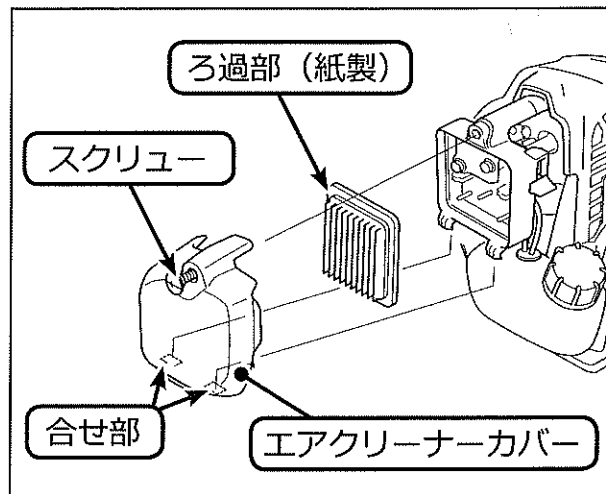
### ▲危険

- 点検・交換時は火気厳禁で行なってください。

清掃・点検時期：毎日（10時間運転毎）

交換時期：毎年（200時間運転毎）

使用頻度に関わらず、燃料パイプは1年で交換してください。燃料漏れは引火する危険があります。  
なお、点検時漏れがあるものは即交換してください。



交換については、販売店または整備工場にご用命ください。

# 点検整備

## ■点火プラグの点検

### ▲注意

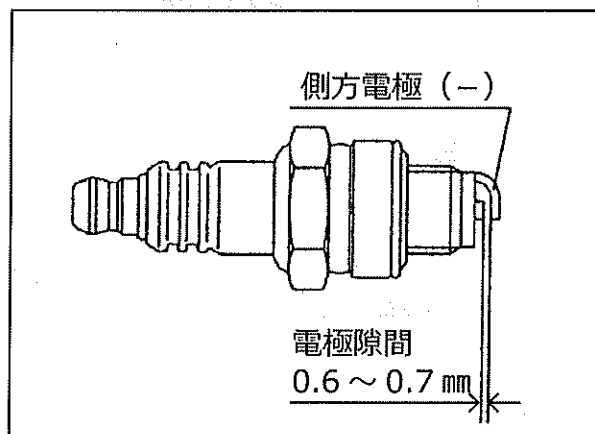
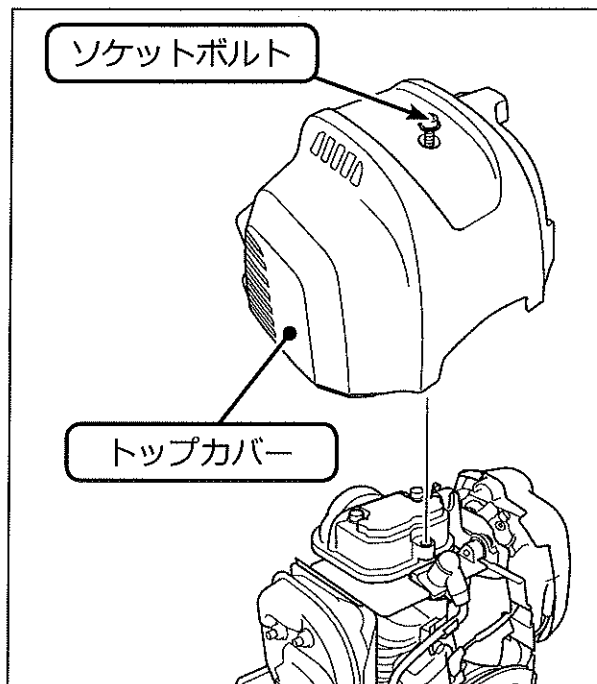
エンジン回転中には絶対に点火プラグの接合部に触らないこと。高圧関電の危険があります。

点検時期：1年毎（100時間運転毎）

使用プラグ・・・CM5H（NGK）

エンジンの調子が悪い場合、点火プラグを点検してください。

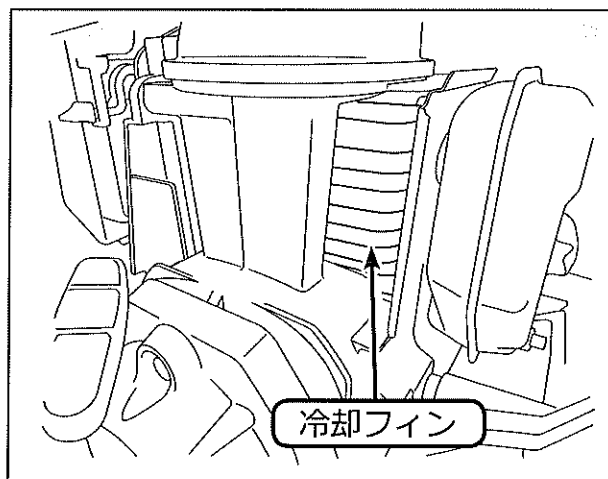
- ① トップカバーのソケットボルトを六角レンチで緩めて取り外します。
- ② 点火プラグの取り外しや取り付けにはボックスレンチ（六角対辺 16 mm）を使ってください。
- ③ 点火プラグの2電極間（右図）は0.6～0.7 mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。
- ④ 点火プラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。
- ⑤ プラグキャップは傷、割れ等が見られた場合には交換してください。



## ■冷却フィンの点検・清掃

清掃時期：6か月毎（50時間運転毎）

- ① トップカバーのソケットボルトを六角レンチで緩めて取り外します。
- ② 点冷却フィンを目視で点検し、ゴミ、泥等による詰まりが無いことを確認します。  
詰まりがある場合は清掃してください。



# 点検整備

作業前点検

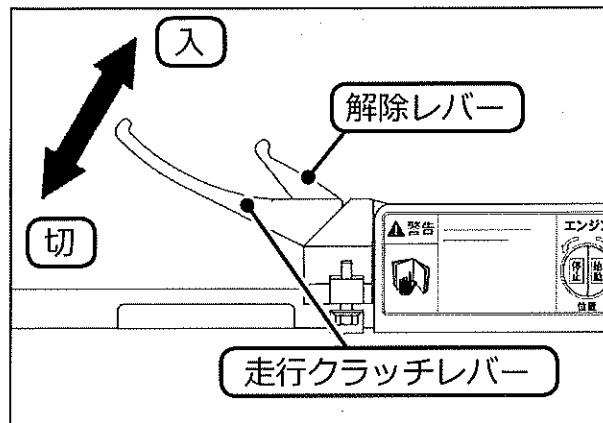
## ■走行クラッチの点検

点検時期：作業前

### ▲ 警告

走行クラッチを点検する時は、必ずエンジンを停止してください。怠ると、急発進することがあり大変危険です。

走行クラッチレバーを「切」にした時、走行クラッチが完全に切れることを確認します。



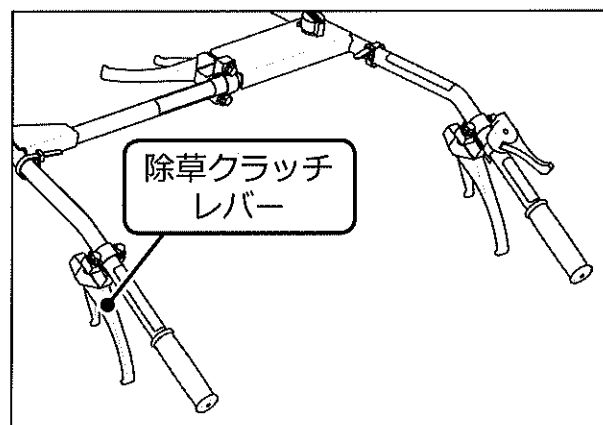
## ■除草クラッチの点検

点検時期：作業前

### ▲ 警告

除草クラッチを点検する時は、必ずエンジンを停止してください。怠ると、急発進することがあり大変危険です。

除草クラッチレバーを「切」にした時、除草クラッチが完全に切れることを確認します。



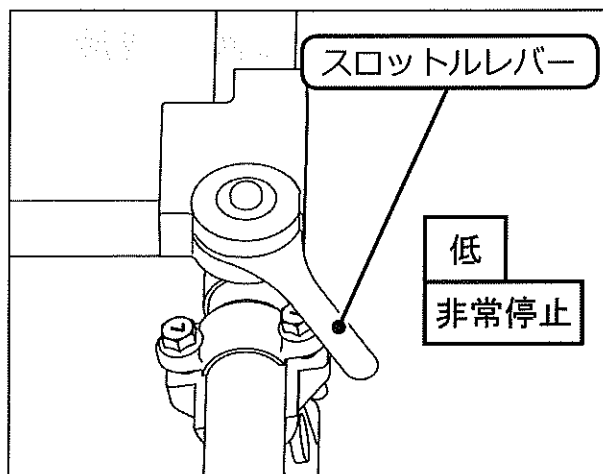
## ■スロットルレバーの点検

点検時期：作業前

### ▲ 警告

スロットルレバーを点検する時は、必ずエンジンを停止してください。怠ると、急発進することがあり大変危険です。

スロットルレバーを操作して、正常に回転の上げ下げができるかを確認します。

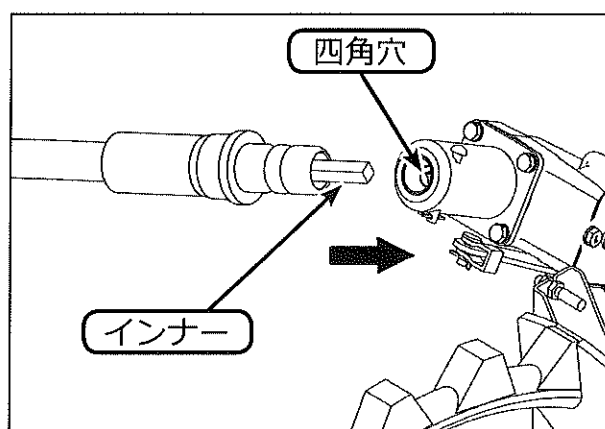
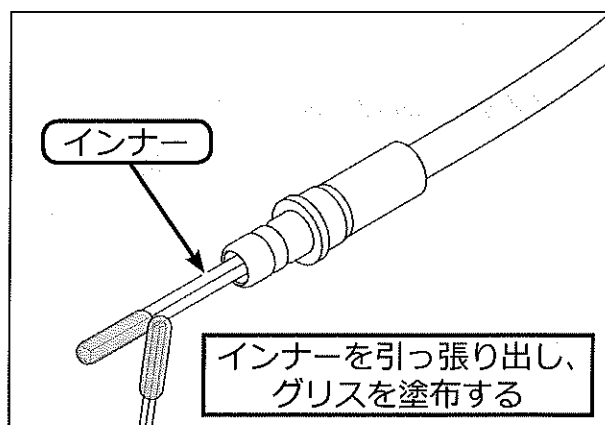
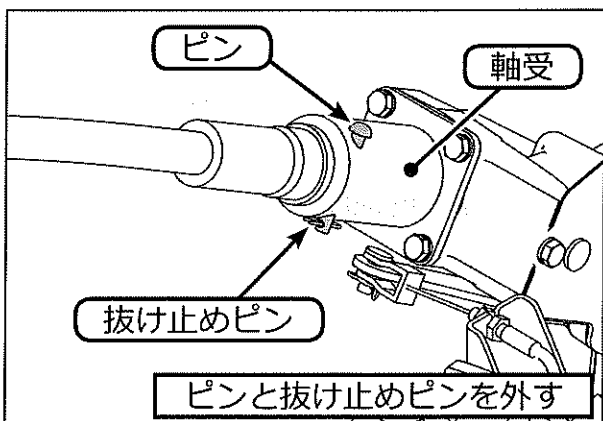
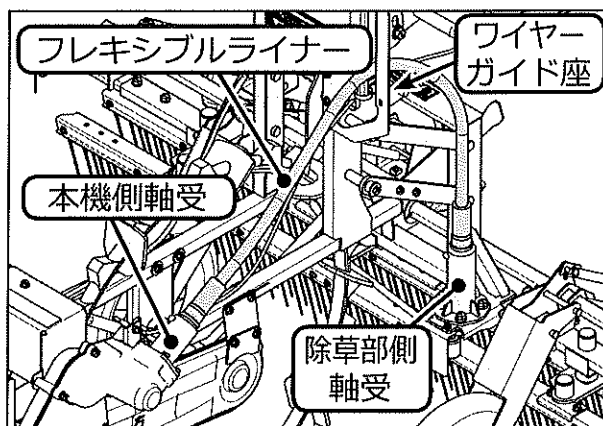


# 点検整備

## ■フレキシブルライナーの グリス塗布

塗布時期：20時間毎

- ①フレキシブルライナーの両側のピン、  
抜け止めピンを外します。
- ②フレキシブルライナーを本機から取り  
外します。
- ③中のインナーを引っ張り出します。
- ④インナーの全長・全周に筆などでグリス  
を十分に塗布します。塗布後はイン  
ナーをフレキシブルライナー内に戻し  
ます。
- ⑤フレキシブルライナーのインナーを本  
機側軸受内の四角穴に入れます。
- ⑥回しながら挿入し、ピン穴位置を合わ  
せます。
- ⑦ピンを取り外した穴に戻し、抜け止め  
ピンで固定します。
- ⑧フレキシブルライナーを引っ張り、抜  
けないことを確認します。
- ⑨フレキシブルライナーをワイヤーガイ  
ド座に通し、フレキシブルライナーの  
インナーを除草部側軸受内の四角穴に  
入れます。
- ⑩⑥～⑧を確認します。



## 長期格納時の手入れ

### ▲ 危険

- ① 長期格納時の手入れを行なうときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
- ② 長期格納時に燃料が残っていると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。
- ③ 燃料の抜き取り時は火気厳禁。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- ④ 燃料の抜き取り時に取り外したり、ゆるめたボルト類は必ず確実に締め付けてください。給油時に燃料もれを起こし、大変危険です。

### ■ 長期格納時の手入れ

- ① 本機各部の泥・汚れをていねいに水洗いし、乾燥させてください。
- ② 注油箇所には油・グリスを塗ってさびないようにします。(13 ページ参照)
- ③ 燃料は必ず抜き取ってください。

### ■ 燃料の抜き取り方

1 か月以上、エンジンを始動しない場合は、変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料を抜いてください。

- ① エンジンを始動し、燃料タンクおよびキャブレター内の燃料が抜けるまで運転してください。
- ② リコイルスタータの始動グリップをゆっくり引き、重くなったところ(圧縮点)で止めておきます。

### ■ 格納のしかた

#### ▲ 警告

作業が終了して、シートカバー等を本機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。

熱いうちにカバー等をかけると、火災の原因になり大変危険です。

- ① リコイルスタータの始動グリップをゆっくり引き、重くなったところ(圧縮点)で止めておきます。
- ② 格納場所は、直射日光の当たらない風通しのよい場所を選び、肥料などと一緒に置かないでシートをかけてください。

#### ● 重要

- 長期保管後の運転の時にはエンジンオイルを交換してください。オイルは使用しなくても劣化します。

# 不調時の処置

- 本機の点検、ほ場の良い条件作りに心がけてください。
- 以下の原因以外については部品の消耗等がありますので、販売店にご相談ください。
- ほ場条件、苗条件、田植え状態による原因もありますので、本機の性能を十分理解の上、ご使用ください。

不調内容	原因	処置	参照ページ
欠株になる	○苗の活着が不十分	○除草作業を延期する	20
	○水深が深い	○作業に適した水深にする	20
	○ブラシの深さが深い	○除草深さの調節を行なう	22
	○ブラシにゴミがかかっている	○ゴミを取り除く	-
	○除草部フックがかけたままになっている	○除草部フックを外す	4
	○本機が前上がりになっている	○本機が水平になるよう、ハンドル高さを調節する	22
	○回転時に除草部が苗を倒す	○除草部を上側の除草部フックにかけて回転する。	4
残草が多い	○除草部高さが適正でない	○除草深さの調節を行なう	22
	○本機が前上がりになっている ○本機が前下がりになっている	○本機が水平になるよう、ハンドル高さを調節する	22
	○ブラシの先端が摩耗している、または折損している。	○ブラシの点検を行なう	14
フロートが泥を均さない	感知ハンドルの調節が不適切	○感知ハンドルの調節(「硬」へハンドルを回す)	23
フロートで泥を押す		○感知ハンドルの調節(「軟」へハンドルを回す)	23

# サービス資料

## ■本機の保証

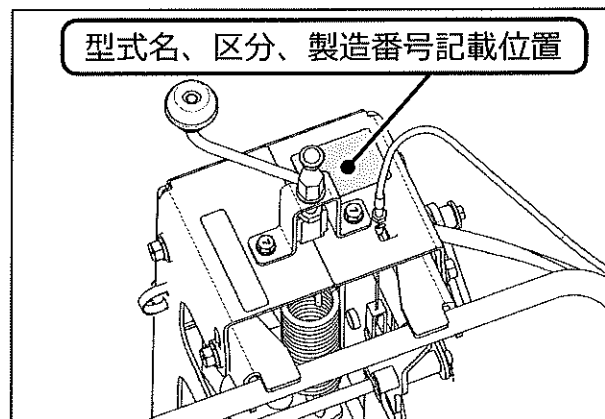
本書、裏表紙に保証書があります。詳細は保証書をご覧ください。

## ■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、販売店にお気軽にご相談ください。その際、型式名、区分および製造番号をあわせてご連絡ください。

(型式マーク)

農業機械の種類	除草機
型式	BW-4A
区分	BW4A
製造番号	※※※※※
条間	30 cm、33 cm
製造会社名	みのる産業株式会社



## ■補修用部品供給期間

本機の補修用部品の供給期間は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給期間内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

## ■主要諸元

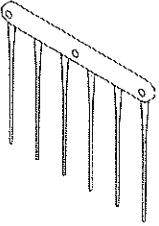
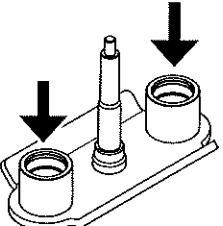
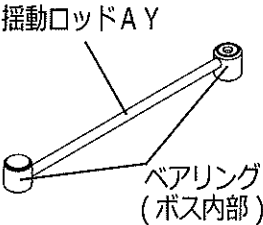
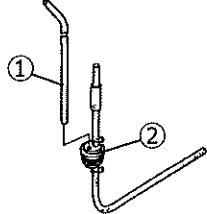
名称		歩行型ブラシ水田除草機
型式		BW-4A
機体寸法	全長 (mm)	1870
	全幅 (mm)	1420 (条間 30 仕様)、1540 (条間 33 cm 仕様)
	全高 (mm)	1000
	質量 (kg)	68
エンジン部	名称	空冷4ストロークガソリンエンジン
	型式	GX35T
	出力/回転速度 [kW(PS)/rpm]	最大 1.0 (1.4) / 7000
	使用燃料	自動車用レギュラーガソリン
	燃料タンク容量 (L)	0.63
走行部	始動方式	リコイルスタータ式
	車輪径 (mm)	680
	走行速度 (m/s)	~ 0.39
ほ場条件	作業能率 (分/10a)	45 ~ (4条)
	適応条数 (条)	4
	適応条間 (cm)	30、33
適応作物		水稻

※仕様は予告なく変更する場合があります。

# サービス資料

## ■消耗品

交換は購入先にご相談ください。

形状	品名	部品番号	備考
	ブラシ	BW4-4309	摩耗したとき交換
	揺動クッション	BW4-4220	ブラシ取付座のガタが大きくなったときに交換 交換目安 4ha
	揺動ロッドAY ベアリング	BW4-4211(2)AY BB-608DD	揺動ロッドのガタが大きくなったときに交換 交換目安 4ha
	①チーブ, フォーミュレーター ②ガンメント ASSY., フォーミュレーター	① HN-17702-ZOH-003 ② HN-17700-ZOZ-305	破損、または 1年毎

## ■オプション部品の紹介

オプションとして下記のを準備してありますので、用途に応じて購入の上ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。

形状	品名	部品番号	備考
	補助車輪 AY	BW4-9200AY	トラックへの積み降ろし、ほ場の出入り時に使用します。(1台分)
	6条キットAY	BW4-9100AY	5条、6条田植機で田植したほ場で使用します。



1. The first part of the document is a list of names and titles, including the names of the authors and the titles of their works. This list is organized in a structured manner, likely serving as a table of contents or a reference list for the document.

## 保証規定

- 保証期間内（お買上げ日より1ヶ年）に正常なる使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
- つぎのような場合には保証期間内でも有料修理になります。
  - 取扱説明書の注意事項を守らなかった場合
  - 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
  - お買上げ後の輸送・移動・落下等による故障及び損傷
  - ご購入時に、「お買上げ日」「販売店名」が未記入、あるいは字句を書き換えられた場合
  - 消耗部品

 **みのる産業株式会社**

# 保証書

※ 本書は再発行しませんので大切に保存してください。

保証期間	1ヶ年
お買上げ日	年 月 日
お客様	ご住所
	〒 TEL
	ご芳名 様

販売店	住所
	店名 印
	TEL

## **みのる産業株式会社**

本社工場 〒 709-0892 岡山県赤磐市下市 447  
TEL(086)955-1123 (代) FAX(086)955-5520

東京支店 〒 337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野 210  
TEL(048)683-9451 (代) FAX(048)683-9452

長野営業所 〒 389-1104 長野県長野市豊野町浅野 582-4  
TEL(026)257-6530 (代) FAX(026)257-6531

徳島営業所 〒 771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197  
TEL(088)641-2311 (代) FAX(088)641-2324

九州支店 〒 818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡 1020-1  
TEL(092)921-6006 (代) FAX(092)921-6008

ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp/>